

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(2020年3月)

2020年3月26日

## ① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1号機 110万kW (1985.9.18運開)	停止中 第16回定期検査中 定検停止期間:2011.8.6~	第15回 2007.5.4 ~ 2010.8.4 停止期間 2007.5.4 ~ 2010.6.6 (1130日) (原子炉起動2010.5.31)	第16回定検による停止!												<燃料の管理> ○ 燃料は、現在、1~7号機の使用済燃料プールで保管し、安定冷却を継続中。 ○ プール水温は、管理上の上限値(65℃)を超えないように管理しており、仮に冷却が停止したとしても、4日以上は管理上の上限値に達しないものと評価しています。
2号機 110万kW (1990.9.28運開)	停止中 第12回定期検査中 定検停止期間:2007.2.19~	第11回 2005.9.3 ~ 2006.5.9 停止期間 2005.9.3 ~ 2005.12.25 (114日) (原子炉起動2005.12.22)	第12回定検による停止!												
3号機 110万kW (1993.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2007.9.19~	第9回 2006.5.12 ~ 2006.9.15 停止期間 2006.5.12 ~ 2006.7.27 (77日) (原子炉起動2006.7.24)	第10回定検による停止!												
4号機 110万kW (1994.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2008.2.11~	第9回 2006.4.9 ~ 2007.1.11 停止期間 2006.4.9 ~ 2006.12.14 (250日) (原子炉起動2006.12.11)	第10回定検による停止!												
5号機 110万kW (1990.4.10運開)	停止中 第13回定期検査中 定検停止期間:2012.1.25~	第12回 2006.11.24 ~ 2011.2.18 停止期間 2006.11.24 ~ 2010.11.25 (1463日) (原子炉起動2010.11.18)	第13回定検による停止!												
6号機 135.6万kW (1996.11.7運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2012.3.26~	第9回 2010.10.31 ~ 2011.3.9 停止期間 2010.10.31 ~ 2011.1.26 (88日) (原子炉起動2011.1.23)	第10回定検による停止!												
7号機 135.6万kW (1997.7.2運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2011.8.23~	第9回 2010.4.18 ~ 2010.7.23 停止期間 2010.4.18 ~ 2010.6.28 (72日) (原子炉起動2010.6.26)	第10回定検による停止!												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

## ② 発電所設備利用率(%)

(2月末現在)

2月	0.0%
2019年度累計	0.0%
運転開始後累計	44.8%

## ③ 発電所発電電力量(万kWh)

(2月末現在)

2月	0
2019年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

## ④ ドラム缶発生量(本)

(2月末現在)

当月発生本数	56
貯蔵庫累積貯蔵本数	30,774
貯蔵庫保管容量	45,000

## ⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (2019年度第3四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

## ⑥ 従業員登録データ(人) (3月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率※1
県内	柏崎市	802	2,288	52%
	刈羽村	77	235	5%
	その他	131	1,121	21%
	小計	1,010	3,644	79%
県外		98	1,140	21%
合計		1,108	4,784 (3,617※2)	-
		5,892		100%
協力企業社数(社)		770		

※1 端数処理のため、割合の合計は100%にならない場合があります。  
 ※2 3月2日の協力企業構内入構者数

## ⑦ 来客情報(人) (2月末現在)

	2月	年度累計
地元	745	13,301
県内	368	7,607
県外	272	8,024
国外	2	248
合計	1,387	29,180

## ⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
休館中	新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から2020年3月3日(火)から当面の期間、柏崎市・刈羽村内の当社施設を休館としています。
検討中	4月度定例所長会見および記者説明会の開催については、今後の情勢を踏まえた上で、改めてお知らせします。
新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、以下の各種イベントについて、中止とさせていただきます。 <今後中止となるイベント> 3月28日 10代フェス(柏崎市文化会館アルフォーレ) 3月29日 初めてのショパン・コンサート(柏崎エネルギーホール) 4月25日、4月26日 映画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)	

インターネットホームページアドレス  
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/index-j.html>

東京電力ホールディングス株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）

2020年3月12日

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
①	2020年 1月17日 1月23日 2月13日 2月27日	7号機	非常用ディーゼル発電機（C）燃料 移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷 の可能性について（区分：その他）	<p><b>【事象の発生】</b> 2020年1月17日、定期点検のために不待機としていた7号機非常用ディーゼル発電機（C）の燃料移送ポンプ※1（屋外）を点検していたところ、ポンプに電気を供給するケーブルの絶縁不良が確認され、ケーブルが損傷している可能性があることが分かりました。</p> <p>なお、7号機以外の非常用ディーゼル発電機（A、B）が待機中のため、保安規定に基づく機能要求（プラント停止中は3台のうち2台が動作可能）は満足しています。</p> <p>※1 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機の燃料である軽油を、屋外の軽油タンクから原子炉建屋内の軽油タンクへ移送するためのポンプ</p> <p><b>【原因】</b> 電線管の調査をした結果、ケーブル損傷箇所上部の電線管に損傷を確認しました。なお、当該箇所以外に損傷箇所はありませんでした。 直接的な原因は、2019年6月に竜巻対策として燃料移送ポンプエリア屋根設置工事を実施していた際※2に、コンクリート内支障物確認のための削孔作業により電線管並びにケーブルを損傷させたものと推定しています。 ケーブルを損傷させた後、当該箇所は電線管内の結露により絶縁抵抗が下がることがありましたが、定例試験により燃料移送機能が維持されていたことを確認していました。 上記の結露が発生する状況に加えて、2020年1月以降の竜巻対策工事による電線管の振動により、ケーブル損傷箇所と電線管が近接し、絶縁不良に至ったものと推定しています。</p> <p>※2 7号機軽油タンク燃料移送ポンプ（A）電線管の損傷事象（2019年6月4日発生・同年6月10日HP掲載）と同日に近接する当該箇所を削孔。</p> <p><b>【対策】</b> 削孔作業中および削孔作業後はファイバースコープ等により孔内状況確認を確実に実施します。 なお、2019年6月以降の屋外での埋設物近傍削孔作業においては、ウォータージェットによる削孔を採用し、埋設物を損傷させない工法としております。 また、損傷したケーブルについては、全て引き直しを行います。 ※3</p> <p>※3 ケーブルの引き直しによる復旧を3月末までに予定していましたが、ケーブル敷設ルートの確認に時間を要することから、3月末までにケーブル損傷箇所の交換を行い、次回定期点検に合わせて7月末までにケーブル全体の引き直しを実施することといたしました。</p> <p style="text-align: right;">（2020年2月27日までにお知らせ済）</p>
②	2020年 3月5日	—	土捨場（屋外）におけるけが人の発生 について（区分：Ⅲ）	—

～柏崎刈羽原子力発電所 不適合審議状況（2020年2月審議分）～

表① 【2020年2月分 審議・完了件数】

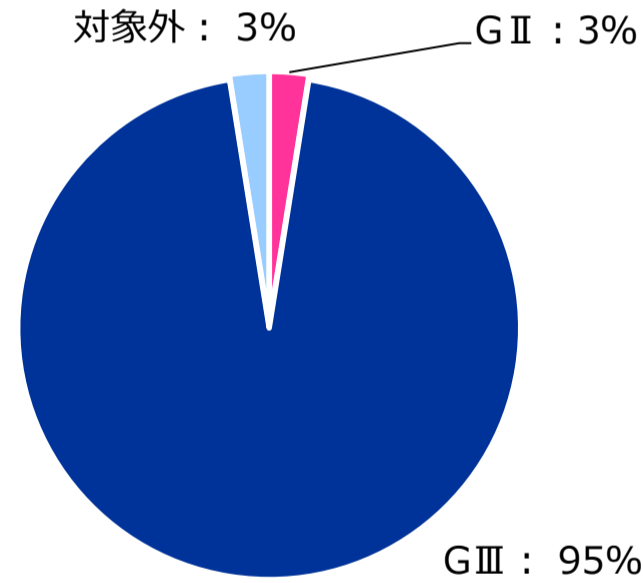
	審議	完了
<b>総計</b>	<b>119</b>	<b>119</b>
GI	0	0
GII	3	0
GIII	113	119
対象外	3	—

表② 【2020年2月分 号機別審議件数】

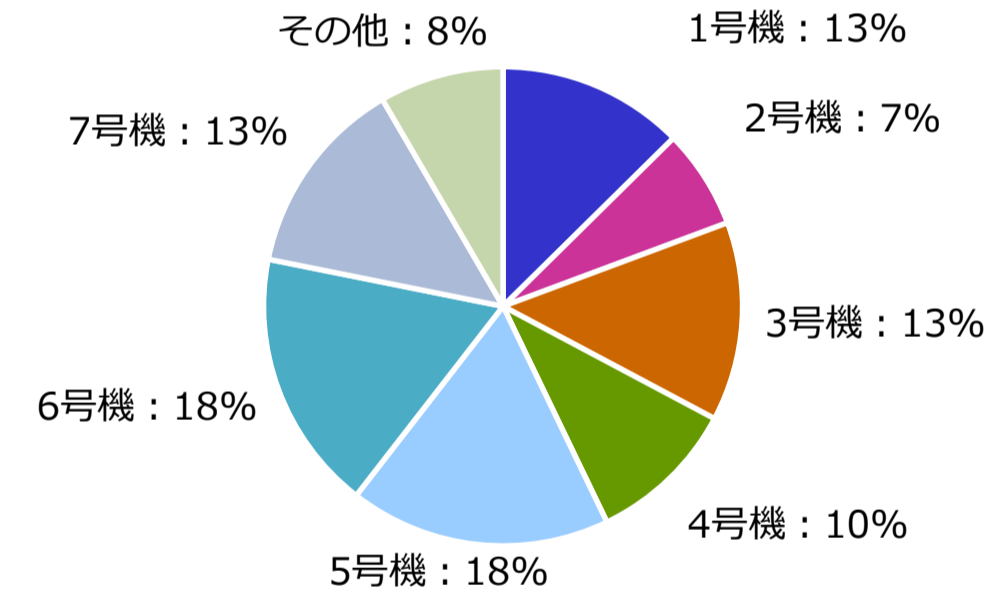
	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機	その他	総計
	定期検査中	定期検査中	定期検査中	定期検査中	定期検査中	定期検査中	定期検査中		
<b>総計</b>	<b>15</b>	<b>8</b>	<b>16</b>	<b>12</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>16</b>	<b>10</b>	<b>119</b>
GI	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GII	0	0	0	0	0	1	1	1	3
GIII	15	8	15	12	20	19	15	9	113
対象外	0	0	1	0	1	1	0	0	3

(運転状況は2020年2月29日現在)

グラフ① 審議件数



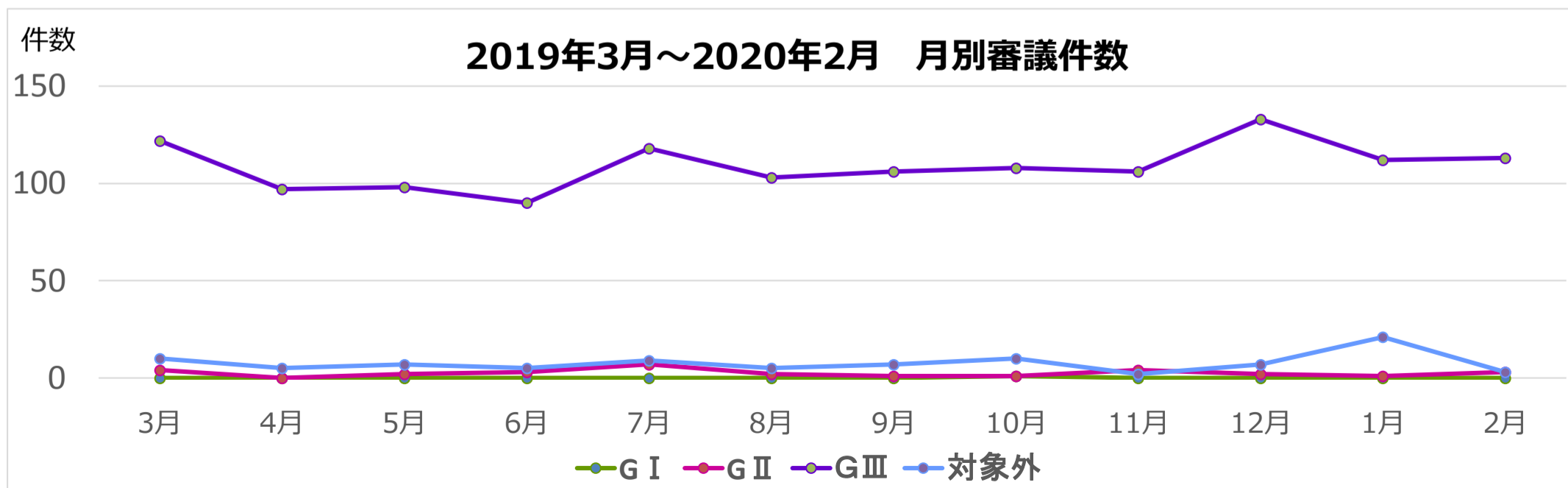
グラフ② 号機別審議件数



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

表③ 【2010年4月からの累計件数】

	審議	未完了
<b>総計</b>	<b>19665</b>	<b>1930</b>
GI	42	11
GII	888	94
GIII	17569	1825
対象外	1166	—



**不適合情報**

2020年2月3日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。  
 不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。  
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	残留熱除去系(B)(C)配管スペース室機器ドレン排水口内に異物があることを確認した。当該異物を除去し排水禁止措置を実施。なお、他設備へ流出していないことを確認済み。	2020/01/27	
2	3号機	原子炉冷却材浄化系サンプリング配管水張り時、ろ過脱塩装置入口サンプルドレン弁弁棒付け根部に微量な水の漏えい(汚染あり)を確認した。拭き取りを実施し放射線管理値以下を確認済み。当該弁を点検・修理。	2020/01/28	
3	7号機	原子炉格納容器内(管理区域)で作業に従事した作業員(1名)のγ・β線用警報付ポケット線量計に、検出されないはずのβ線(0.1mSv)が記録されていることを確認した。作業エリアの線量測定の結果β線は検出されず、同一作業に従事した作業員の線量計計測値も0.00mSvであったことから線量計の故障と評価。当該線量計の使用を禁止し原因を調査。	2020/01/28	
4	7号機	原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン(B)点検時、取り外した機材が転倒し低圧主蒸気止め弁差動用芯棒を折損させたことを確認した。当該機器を修理。	2020/01/27	
5	その他	直流給電車(1号車)点検時、配線用しゃ断器に動作不良を確認した。当該機器を点検・修理。	2020/01/28	

**不適合情報**

2020年2月4日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックをご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 8件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	154kV開閉所建屋中性点抵抗器室に雨水の浸入により床面(約3リットル)および床下ケーブルトレイ(約4リットル)に水溜まりがあることを確認した。拭き取り実施済み。当該箇所を修理。	2020/01/30	
2	3号機	原子炉区域タービン建屋排水槽ポンプ運転記録計にインクリボン送りギヤの動作不良を確認した。当該記録計を点検・修理。	2020/01/30	
3	6号機	コントロール建屋常用電気品区域冷却コイル温度調節弁弁棒付け根部に微量な水の漏えいを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/01/29	
4	6号機	換気空調補機非常用冷却水系(A)往還差圧調節弁弁棒付け根部に微量な水の漏えいを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/01/29	
5	6号機	換気空調補機非常用冷却水系(B)往還差圧調節弁弁棒付け根部に微量な水の漏えいを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/01/29	
6	6号機	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(A)潤滑油ストレナボンネットフランジ部に微量な油滲みを確認した。拭き取り実施、受けパン設置済み。当該部を点検・修理。	2020/01/30	
7	7号機	原子炉補機冷却海水系ポンプ(C)点検時、ベースレベル(ポンプの傾き)測定値が管理値を逸脱していることを確認した。当該機器の健全性について検討。	2020/01/29	
8	その他	モニタリングポスト等の測定値インターネットシステムおよび新潟県環境放射線監視テレメータシステムへの伝送が一時的に停止したことを確認した。当該事象の原因を調査。なお、測定は継続されておりデータの収集および測定値に異常の無いことを確認。	2020/01/30	

**不適合情報**

2020年2月5日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。  
 不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。  
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 7件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	1月分定例試験報告書作成時、定例試験監視項目リストの原本が保存されていないことを確認した。当該リストを探索および原因を調査。なお、文書・記録管理業務ガイドに従い当該リストの写しを原本の代替として保管。	2020/02/02	
2	3号機	原子炉建屋3階(管理区域)南側壁面下部に微量な水のしみおよび床面に水溜まり(約180cc、汚染なし)があることを確認した。拭き取り実施済み。当該箇所を点検・修理。	2020/01/30	
3	5号機	洗濯設備建屋加湿器(B)ユニット内部に結露を確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/01/30	
4	7号機	原子炉建屋4階(管理区域)で作業に従事していた作業員のPHS着信時、 $\gamma$ ・ $\beta$ 線用警報付ポケット線量計の警告音が発報し $\gamma$ 線(0.06mSv)が記録されていることが確認された。作業エリアに $\gamma$ 線の検出箇所はなく、同一作業に従事した作業員の線量計計測値も0.00mSvであった。当該事象の原因を調査。	2020/01/31	
5	7号機	中央制御室において制御盤入替工事に従事していた作業員が、床面に膝をついた際に床に置いてあったニッパーにより左膝を切創した。業務車にて病院へ搬送し処置(3針縫合)を実施。 【2020年1月31日公表済み】 <a href="http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/press/pdf/2019/2020013101p.pdf">http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/press/pdf/2019/2020013101p.pdf</a>	2020/01/31	
6	7号機	定期検査時水張用原子炉水位計(B)に動作不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/03	
7	その他	放射能観測車天井のケーブル貫通部から雨水と思われる水が車内に浸入し、計測器類の一部が被水したことを確認した。拭き取り実施済み。当該車両を屋根付き場所に移動・保管。当該事象の原因を調査し計測器類を点検・修理。	2020/01/31	

**不適合情報**

2020年2月6日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックをご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 8件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	3号機	ほう酸水注入系貯蔵タンク空気分散管(スパージャ)に詰まりを確認した。当該管を清掃。	2020/02/02	
2	6号機	サービス建屋排煙機室用照明スイッチに動作不良を確認した。当該スイッチを点検・修理。	2020/02/01	
3	6号機	ダスト放射線モニタに伝送異常を示す警報の発生を確認した。当該事象の原因を調査。なお、観測停止期間中は代替測定を実施。	2020/02/01	
4	6号機	所内高圧電源盤地絡方向継電器試験時、機器動作値が管理値を逸脱していることを確認した。当該機器を交換。	2020/02/01	
5	6号機	原子炉建屋4階(非管理区域)ギャラリー通路天井部に雨水の滴下を確認した。受けパン設置済み。当該部を点検・修理。	2020/02/03	
6	6号機	電解鉄イオン注入系原子炉補機冷却海水系(B)点検中、鉄イオン供給流量調節弁に固着を確認した。当該弁を修理。	2020/02/04	
7	7号機	原子炉内蔵型再循環ポンプモータ熱交換器(D)に機器停止中にもかかわらず冷却水流量異常の警報の発生を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/02	
8	7号機	所内低圧電源盤点検による電源停止にともない設置した仮設赤外線炎感知器4カ所のうち1カ所に異常を確認した。電源停止となるコンセントへの誤接続を確認。コンセント接続先を変更し正常状態に復旧。	2020/01/31	

## 不適合情報

2020年2月7日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	屋外放射線監視盤(1系)に異常を示す警報の発生を確認した。当該事象の原因を調査。なお、2系は正常に動作しており測定および伝送に影響なし。	2020/02/04	
2	3号機	タービン建屋低電導度廃液系排水槽(B)ポンプ(B)操作スイッチに動作不良を確認した。当該機器を点検・修理。	2020/02/01	
3	4号機	高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機区域排風機切替え時、逆流防止ダンパーに動作不良を確認した。当該設備を点検・修理。	2020/01/31	
4	4号機	海水熱交換器建屋地下2階(非管理区域)電解鉄イオン注入系海水供給ポンプケーシングドレン配管に孔の発生および微量な水の漏えいを確認した。受けパン設置済み。当該配管を点検・修理。	2020/02/04	
5	5号機	取水口除塵装置洗浄ポンプ(B)自動空気抜弁にシートバスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/03	



## 不適合情報

2020年2月10日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックをご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 8件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	1/2号機サービス建屋退出モニタNo12に未使用の状態にもかかわらず異常を示す警報の発生を確認した。使用禁止措置を実施。当該機器を点検・修理。	2020/02/04	
2	1号機	原子炉建屋1階(管理区域)北西二重扉に動作不良および動作不良を示す警報が発生しなかったことを確認した。当該扉を点検・修理。 (パフォーマンス向上会議で不適合以外の管理から不適合としての管理を指示された事象)	2020/01/14	
3	3号機	復水ろ過装置配管スペース室内計装用圧縮空気系分岐箱に空気の漏えいを確認した。当該設備を点検・修理。	2020/02/05	
4	4号機	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(D)点検時、冷媒回収タンク内部に錆らしきものの混入を確認した。当該冷媒を交換し回収タンク内部を清掃。	2020/02/05	
5	4号機	放射性廃棄物処理設備電子計算機点検時、プリンタサーバの動作不良を確認した。当該機器を修理。	2020/02/04	
6	5号機	ろ過水移送ポンプ(A)吐出圧力計に動作不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/04	
7	5号機	海水熱交換器建屋地下1階(非管理区域)北西エリア天井に雨水の滴下および床面に水溜まり(約1.8cc)を確認した。拭き取り実施、受けパン設置済み。当該部を点検・修理。	2020/02/06	
8	7号機	原子炉冷却材浄化系ろ過脱塩器(A)1次入口弁に動作不良を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/04	

## 不適合情報

2020年2月12日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	2号機	放射性廃棄物処理設備監視制御システムに故障を示す警報の発生を確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。なお、他の監視制御システムが正常なため監視・運転に支障なし。	2020/02/07	
2	2号機	荒浜側雑固体廃棄物焼却設備電気品室電動シャッター点検時、絶縁抵抗不良を確認した。当該電動シャッターを修理。	2020/02/06	
3	3号機	残留熱除去系(B)格納容器冷却流量調節弁(B)試験時、開度計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/06	
4	5号機	原子炉建屋地下2階(管理区域)煙感知器連動防火ダンパー(2台)に動作不良を確認した。当該区域での火気作業を禁止。当該ダンパーを点検・修理。	2020/02/05	
5	その他	大湊側補助ボイラー電気盤(A)に地絡を示す警報の発生を確認した。当該事象の原因を調査。	2020/02/08	

## 不適合情報

2020年2月13日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 0件

3. GIIIグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	2号機	非常用ガス処理系(A)ドレン水封水用補給水配管に詰まりを確認した。当該配管を清掃。	2020/02/07	
2	4号機	非放射性ドレン移送系放射性廃棄物処理設備電気品室給気処理装置室非放射性スチームドレン移送系排水槽ポンプ吐出逆止弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/09	
3	5号機	防火ダンパー点検において、原子炉建屋付属棟地下2階南西階段室前の2箇所にて動作不良が確認されたものの、点検結果を当社監理員が当直員に伝達するのを失念していた。当直員から問合せのあるまでの間、火災対応に支障をきたす状態であったことを確認した。当該事象の原因を調査。	2020/02/06	
4	6号機	消火設備設置工事のサポート材取り付け作業中に、作業姿勢を変えようとした作業員(A)の右手が作業員(B)の左目付近に当たり、保護メガネのレンズが割れ左まぶたを切創(擦り傷程度)した。業務車にて病院に搬送し処置を実施(点眼および軟膏塗布)。	2020/02/08	
5	7号機	純水補給水系制御棒駆動機構ポンプ室前床除染用ホースコネクション止め弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/09	

## 不適合情報

2020年2月14日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 1件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	原子炉安全の観点から見たグレード
1	その他	社内認定資格(工事監理員)の有効期限確認時、当社社員1名が期限が切れた状態で工事監理業務を実施していたことを確認した。認定資格の更新を実施。当該事象の原因を調査。	2020/02/06	GIII

3. GIIIグレード 9件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	1/2号機サービス建屋退出モニタNo12に未使用の状態にもかかわらず異常を示す警報が発生し、点検中の表示が点灯していることを確認した。当該退出モニタの使用を禁止。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/02/07	
2	2号機	中央制御室作業用電源箱(2R2-A1)に受電ランプが消灯していることを確認した。当該設備を点検・修理。	2020/02/07	
3	3号機	管理区域入域時、作業員(1名)が入退域管理装置の処理が完了する前に入域したことを確認した。当該事象の原因を調査。なお、作業員は警報付きポケット線量計を携帯しており線量評価に問題なし。	2020/02/07	
4	3号機	タービン建屋管理区域内の復水脱塩装置系計装用圧縮空気系分岐箱に空気の漏えいを確認した。当該設備を点検・修理。	2020/02/10	
5	4号機	原子炉再循環系給気処理エリア非放射性スチームドレン移送系排水槽ポンプ(A)吐出逆止弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/09	
6	4号機	原子炉再循環系給気処理エリア非放射性スチームドレン移送系排水槽ポンプ(B)吐出逆止弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/09	
7	5号機	中央制御室プラント内放送設備(拡声装置)3台に動作不良を確認した。当該設備を点検・修理。	2020/02/09	
8	5号機	南新潟幹線遮蔽用避雷鉄塔に航空障害灯の不点を確認した。当該設備を点検・修理。なお、不点情報を国土交通省東京航空局東京空港事務所管制保安部に連絡済み。	2020/02/11	
9	6号機	大湊側洗濯建屋(管理区域)で作業に従事した作業員(1名)のγ・β線用警報付きポケット線量計に、γ線(0.03mSv)が記録されていることを確認した。作業エリア・移動経路にγ線の検出箇所はなく、同一作業に従事した作業員の線量計計測値も0.00mSvであった。当該線量計の使用を禁止し原因を調査。	2020/02/10	

## 不適合情報

2020年2月17日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GⅠグレード 0件
- 2. GⅡグレード 0件
- 3. GⅢグレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	1/2号機サービス建屋入退域管理装置No. 15での退域処理時に異常を示す警報の発生を確認した。当該装置の使用を禁止。入退域管理装置を再起動し正常状態に復旧。当該事象の原因を調査。	2020/02/12	
2	3号機	中央制御室に放射性廃棄物処理設備の異常を示す警報発生時、同時に当直長席の放射性廃棄物処理設備監視装置に警報が発生するところ、警報が発生しないことを確認した。当該監視装置を点検・修理。	2020/02/12	
3	4号機	非常用ガス処理系排ガス放射線モニタ(A)に異常を示す警報が発生し指示不良を確認した。当該事象の原因を調査。なお、(B)系は正常なため測定に影響なし。	2020/02/12	
4	5号機	原子炉補機冷却海水系ストレーナー(B)差圧計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/12	

## 不適合情報

2020年2月18日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 0件

3. GIIIグレード 6件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	計装用圧縮空気系空気貯槽点検時、ドレン凝縮水排水装置バイパス弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/10	
2	5号機	南新潟線線路遮蔽用避雷鉄塔に航空障害灯(中段:北北西および南南東、最下段:南南東)の不点を確認した。当該電球を交換。なお、不点情報を国土交通省東京航空局東京空港事務所管制保安部に連絡済み。	2020/02/13	
3	6号機	燃料プール冷却浄化系出口流量記録計にモーターの異音発生および動作不良を確認した。当該記録計を点検・修理。なお、監視盤で指示値を確認可能なため系統監視に問題なし。	2020/02/12	
4	7号機	使用済燃料プール上部空調ダクト耐震強化工事において、本来作成されるべき異物混入防止計画書が作成されずに工事を実施していたことを確認した。当該計画書を作成。当該事象の原因を調査。	2020/02/11	
5	その他	荒浜側補助ボイラー給水タンク(B)水位調整弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/12	
6	その他	水処理設備大湊側ろ過水移送ポンプ排水電磁弁(A)(B)に動作不良を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/13	

**不適合情報**

2020年2月19日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	管理区域からの物品搬出前確認測定時、作業で使用したゴムマットに汚染(5.3Bq/cm <sup>2</sup> )があることを確認した。仮置エリア～測定エリアおよび作業員に汚染なし。分析で人工核種を確認。当該事象の原因を調査。なお、ゴムマットは養生し管理区域内で保管。	2020/02/13	
2	3号機	高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備排気チャンパー内ダンパー(1箇所)に固着を確認した。当該ダンパーを交換。	2020/02/06	
3	5号機	高電導度廃液系濃縮装置導電率記録計にインク打点の色ずれがあることを確認した。当該記録計を点検・修理。なお、記録値に異常がないことを確認済み。	2020/02/15	
4	6号機	電解鉄イオン注入系原子炉補機冷却海水系(B)流量計前弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/14	

**不適合情報**

2020年2月20日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 10件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	計装用圧縮空気系空気圧縮機(B)の電動機に異音の発生を確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/02/14	
2	1号機	新新潟幹線2号線碍子洗浄配管に微小な孔の発生および水漏れを確認した。当該配管を点検・修理。	2020/02/17	
3	1号機	サービス建屋空調設備に異常を示す警報が発生し、給気加熱器所内蒸気系供給ライン温度調節弁の動作不良を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/18	
4	2号機	原子炉再循環系電動機発電機セット区域給気温度計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/14	
5	5号機	大湊側緊急用電気品室動力変圧器電力積算値の上昇率が受電切替以降減少していることを確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/02/17	
6	5号機	海水熱交換器建屋プラント内放送設備の1チャンネルに音声の拡声不良および通話不良を確認した。当該設備を点検・修理。なお、他チャンネルでの拡声は可能なため機能に問題なし。	2020/02/16	
7	5号機	所内蒸気系所内温水系バックアップ熱交換器入口減圧弁に動作不良を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/18	
8	6号機	中央制御室防災盤に異常を示す警報が発生し、コントロール建屋常用電気品区域給気ライン防煙ダンパーの作動およびヒューズ切れを確認した。当該ヒューズを交換しダンパーを復旧。	2020/02/16	
9	6号機	計装用圧縮空気系空気圧縮機(B)点検後の確認運転において、No1シリンダに異音の発生を確認した。当該事象の原因を調査し修理。なお、計装用圧縮空気系空気圧縮機(A)により供給が可能であり影響なし。	2020/02/17	
10	7号機	換気空調系信号変換器電源コネクタに動作不良を確認した。当該機器を交換。	2020/02/17	



## 不適合情報

2020年2月21日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 0件

3. GIIIグレード 3件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	3号機	3/4号機サービス建屋防火戸点検時、3階通路の防火戸(片側)が自動閉にならない動作不良を確認した。当該戸を修理。なお、自動閉にならない防火戸を手動にて閉とし片側運用を実施。	2020/02/18	
2	4号機	海水熱交換器建屋地下1階(非管理区域)タービン補機冷却海水系パイプスペース室南側壁に水の染み出しを確認した。当該箇所を点検・修理。	2020/02/19	
3	7号機	タービン建屋天井クレーン巻き上げ機(補巻)に動作不良が発生し、緊急停止させたことを確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/02/17	

## 不適合情報

2020年2月25日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GIグレード 0件
- 2. GIIグレード 0件
- 3. GIIIグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	2号機	回転式取水口除塵装置(C)の電動機ファンカバーが腐食していることを確認した。当該カバーを点検・修理。	2020/02/17	
2	4号機	非常用ディーゼル発電機(B)区域給気ルーバー室清掃時、差圧扉均圧小扉を誤ってコンクリート壁にぶつけ扉を破損させたことを確認した。ただちに小扉を修理し差圧の維持を確認済み。当該事象の原因を調査。	2020/02/18	
3	5号機	取水口除塵装置(C)洗浄水元弁下流側フランジ部に海水の漏えいを確認した。当該フランジ部を点検・修理。	2020/02/19	
4	7号機	燃料取替機制御装置ソフト変更後の確認時、計算機再起動しても計算機ディスプレイの画面が表示されないことを確認した。当該機器を交換。	2020/02/17	
5	その他	放射線防護に関する教育記録確認時、当社社員(1名)が有効期間を過ぎても作成されていないことを確認した。当該事象の原因を調査し記録を作成。なお、教育に関する基準を満足していることを確認済み。	2020/02/19	

## 不適合情報

2020年2月26日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

- 1. GⅠグレード 0件
- 2. GⅡグレード 0件
- 3. GⅢグレード 3件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	5号機	タービン補機冷却水系ポンプ(A)反カップリング側軸受にエアブリーザー(フィルタ)の固定ネジが空回りして外れないことを確認した。当該設備を点検・修理。	2020/02/19	
2	6号機	サービス建屋消火系給水元弁にシートバス発生を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/19	
3	その他	大湊側焼却設備排ガスプロア吸込弁電磁弁に空気漏れを確認した。当該電磁弁を点検・修理。	2020/02/19	

## 不適合情報

2020年2月27日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 1件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	原子炉安全の観点から見たグレード
1	6号機	可燃性ガス濃度制御系室二重扉の長時間(5分)開放時、本来中央制御室防災盤に開放継続を示す警報が発生するところ発生していないことを確認した。現場制御盤を確認し信号ケーブルが接続されていないことを確認。信号ケーブルを接続し復旧済み。当該事象の原因を調査。	2020/02/18	GIII

3. GIIIグレード 3件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	5号機	5/6号機用消火系配管連絡弁および6/7号機消火系配管連絡元弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/19	
2	6号機	中央制御室防災盤に泡現場制御盤の異常を示す警報の発生を確認した。原因を調査し中継器の不良と判断。当該中継器を直ちに交換し正常状態に復旧済み。	2020/02/20	
3	その他	固体廃棄物貯蔵庫天井にコンクリート(1kg程度)が剥離して落下していることおよび壁面から微量の雨水(約30cc)が染み出していることを確認した。当該箇所を点検・修理。 (パフォーマンス向上会議で不適合以外の管理から不適合としての管理を指示された事象)	2020/01/30	

## 不適合情報

2020年2月28日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、審議時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/inside/pdf/image1.pdf>

1. GIグレード 0件

2. GIIグレード 0件

3. GIIIグレード 15件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	500kV開閉所ロードヒーター制御盤に漏電遮断器が動作していることを確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2020/02/25	
2	1号機	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機常用空調系排気ダクト制気口に仮設単管ダクトが接続されていることを確認した。当該単管ダクトを撤去。	2020/02/26	
3	2号機	所内蒸気戻り系ポンプ(A)ベント弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/22	
4	2号機	所内蒸気戻り系ポンプ(B)ベント弁にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/22	
5	3号機	中央制御室監視用テレビモニタ装置(B)に映像の乱れを確認した。当該モニタを点検・修理。なお、モニタ(A)は正常で監視機能に影響なし。	2020/02/24	
6	3号機	非常用ディーゼル発電機(A)排気管天井貫通部に雨水の浸入および床面に水溜まりを確認した。拭き取り実施済み、受けパン設置済み。当該部を点検・修理。	2020/02/23	
7	3号機	サービス建屋消防設備の点検時、南西階段室(地下2階および1階)防火戸が全閉できないことを確認した。調査の結果、起動装置およびクローザーに問題はなく、地下2階工具センター前の止水扉(常時閉運用)が閉鎖されていると差圧により全閉できないことを確認した。当該止水扉を常時開運用とし、改善策を検討・実施。	2020/02/26	
8	4号機	残留熱除去系サンプリングラック流量計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2020/02/22	
9	4号機	換気空調系タービン建屋給気処理装置冷温水兼用コイルドレン弁(9)または換気空調系タービン建屋給気処理装置冷温水兼用コイルドレン弁(10)のどちらかまたは両方にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/24	
10	5号機	消火系山側主配管連絡弁および海側主配管連絡弁のどちらかまたは両方にシートパスを確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/21	
11	5号機	計装用圧縮空気系空気圧縮機(B)無負荷運転時、気水分離器に圧力低下を確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。なお、負荷運転時の圧力は正常で機能に影響なし。	2020/02/24	
12	5号機	工具センターにおける計測器の定期校正時、振動計(1台)および絶縁抵抗計(1台)、デジタルマルチメータ(1台)の精度が管理値を超えていることを確認した。当該計器の使用を禁止。当該計測器を使用した測定記録の妥当性を評価。	2020/02/25	
13	6号機	取水口除塵装置洗浄ポンプ(B)逆止弁に動作不良を確認した。当該弁を点検・修理。	2020/02/21	
14	6号機	炉心性能計算機状態監視画面にサーバ(B)のハードウェア(記録媒体)異常を示す警報の発生を確認した。当該事象の原因を調査。なお、ハードウェア(記録媒体)は3台あり機能に影響なし。	2020/02/25	
15	7号機	原子炉建屋高電導度廃液系排水槽ポンプ(E)出口弁の開度計プレートが変形し弁操作ができないことを確認した。当該開度計プレート部を修理。	2020/02/22	

# 柏崎刈羽原子力発電所における 安全対策の取り組み状況について

2020年3月26日

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

**TEPCO**

# 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年3月25日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
<b>I. 耐震・対津波機能（強化される主な事項のみ記載）</b>		
<b>1. 基準津波により安全性が損なわれないこと</b>		
（1）基準津波の評価	完了	
（2）防潮堤の設置	完了	
（3）原子炉建屋の水密扉化	完了	完了
（4）津波監視カメラの設置	完了	
（5）貯留堰の設置	完了	完了
（6）重要機器室における常設排水ポンプの設置	完了	完了
<b>2. 津波防護施設等は高い耐震性を有すること</b>		
（1）津波防護施設（防潮堤）等の耐震性確保	完了	完了
<b>3. 基準地震動策定のため地下構造を三次元的に把握すること</b>		
（1）地震の揺れに関する3次元シミュレーションによる地下構造確認	完了	完了
<b>4. 安全上重要な建物等は活断層の露頭がない地盤に設置</b>		
（1）敷地内断層の約20万年前以降の活動状況調査	完了	完了
<b>5. 耐震強化（地盤改良による液状化対策含む）</b>		
（1）屋外設備・配管等の耐震評価・工事 （取水路、ガスタービン発電機、地上式フィルタベント等）	工事中	工事中
（2）屋内設備・配管等の耐震評価・工事	工事中	工事中
<b>II. 重大事故を起こさないために設計で担保すべき機能（設計基準） （強化される主な事項のみ記載）</b>		
<b>1. 火山、竜巻、外部火災等の自然現象により安全性が損なわれないこと</b>		
（1）各種自然現象に対する安全上重要な施設の機能の健全性評価・工事	工事中	工事中
（2）防火帯の設置	完了	
<b>2. 内部溢水により安全性が損なわれないこと</b>		
（1）溢水防止対策（水密扉化、壁貫通部の止水処置等）	工事中	工事中

□: 検討中、設計中 □: 工事中 □: 完了

# 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年3月25日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
3. 内部火災により安全性が損なわれないこと		
(1) 耐火障壁の設置等	工事中	工事中
4. 安全上重要な機能の信頼性確保		
(1) 重要な系統(非常用炉心冷却系等)は、配管も含めて系統単位で多重化もしくは多様化	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 重要配管の環境温度対策	設計中	工事中
5. 電気系統の信頼性確保		
(1) 発電所外部の電源系統多重化(3ルート5回線)	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 非常用ディーゼル発電機(D/G)燃料タンクの耐震性の確認	完了	完了
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
1. 原子炉停止		
(1) 代替制御棒挿入機能	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(3) ほう酸水注入系の設置	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
2. 原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧		
(1) 自動減圧機能の追加	完了	完了
(2) 予備ポンペ・バッテリーの配備	完了	完了
3. 原子炉注水		
3. 1 原子炉高圧時の原子炉注水		
(1) 高圧代替注水系の設置	工事中	工事中
3. 2 原子炉低圧時の原子炉注水		
(1) 復水補給水系による代替原子炉注水手段の整備	完了	完了
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置による原子炉注水手段の整備	完了	完了
(3) 消防車の高台配備	完了	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備



## 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年3月25日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
<b>4. 重大事故防止対策のための最終ヒートシンク確保</b>		
(1) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了
(2) 耐圧強化ベントによる大気への除熱手段を整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
<b>5. 格納容器内雰囲気冷却・減圧・放射性物質低減</b>		
(1) 復水補給水系による格納容器スプレイ手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
<b>6. 格納容器の過圧破損防止</b>		
(1) フィルタベント設備(地上式)の設置	工事中	工事中
(2) 新除熱システム(代替循環冷却系)の設置	工事中	工事中
<b>7. 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却(ペDESTAL注水)</b>		
(1) 復水補給水系によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	完了	完了
(3) コリウムシールドの設置	完了	完了
<b>8. 格納容器内の水素爆発防止</b>		
(1) 原子炉格納容器への窒素封入(不活性化)	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
<b>9. 原子炉建屋等の水素爆発防止</b>		
(1) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	完了
(2) 原子炉建屋水素検知器の設置	完了	完了
<b>10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保</b>		
(1) 使用済燃料プールに対する外部における接続口およびスプレイ設備の設置	完了	完了

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

## 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年3月25日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
11. 水源の確保		
(1) 貯水池の設置	完了	完了
(2) 重大事故時の海水利用(注水等)手段の整備	完了	完了
12. 電気供給		
(1) ガスタービン発電機(7号機脇)・電源車の配備	工事中	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
(4) 代替直流電源(バッテリー等)の配備	完了	完了
13. 中央制御室の環境改善		
(1) シビアアクシデント時の運転員被ばく線量低減対策(中央制御室ギャラリー室内の遮へい等)	工事中	
14. 緊急時対策所		
(1) 5号機における緊急時対策所の整備	工事中	
15. モニタリング		
(1) 常設モニタリングポスト専用電源の設置	完了	
(2) モニタリングカーの配備	完了	
16. 通信連絡		
(1) 通信設備の増強(衛星電話の設置等)	完了	
17. 敷地外への放射性物質の拡散抑制		
(1) 原子炉建屋外部からの注水設備(大容量放水設備等)の配備	完了	
(2) ブローアウトパネル遠隔操作化	設計中	設計中

# 柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の実施状況

2020年3月25日現在

項目	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
<b>I. 防潮堤（堤防）の設置</b>	完了 <sup>※3</sup>				完了		
<b>II. 建屋等への浸水防止</b>							
(1) 防潮壁の設置（防潮板含む）	完了	完了	完了	完了	海拔15m以下に開口部なし		
(2) 原子炉建屋等の水密扉化	完了	検討中	工事中	検討中	完了	完了	完了
(3) 熱交換器建屋の浸水防止対策	完了	完了	完了	完了	完了	-	
(4) 開閉所防潮壁の設置 <sup>※2</sup>	完了						
(5) 浸水防止対策の信頼性向上（内部溢水対策等）	工事中	検討中	工事中	検討中	工事中	工事中	工事中
<b>III. 除熱・冷却機能の更なる強化等</b>							
(1) 水源の設置	完了						
(2) 貯留堰の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(3) ガスタービン発電機・電源車の配備	完了					工事中	工事中
(4) -1 緊急用の高圧配電盤の設置	完了						
(4) -2 原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(5) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(6) 高圧代替注水系の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(7) フィルタベント設備（地上式）の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(8) 原子炉建屋トップベント設備の設置 <sup>※2</sup>	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(9) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(10) 格納容器頂部水張り設備の設置 <sup>※2</sup>	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(11) 環境モニタリング設備等の増強・モニタリングカーの増設	完了						
(12) 高台への緊急時用資機材倉庫の設置 <sup>※2</sup>	完了						
(13) 大湊側純水タンクの耐震強化 <sup>※2</sup>	-				完了		
(14) 大容量放水設備等の配備	完了						
(15) アクセス道路の多重化・道路の補強	完了				工事中		
(16) 免震重要棟の環境改善	工事中						
(17) 送電鉄塔基礎の補強 <sup>※2</sup> ・開閉所設備等の耐震強化工事 <sup>※2</sup>	完了						
(18) 津波監視カメラの設置	工事中				完了		
(19) コリウムシールドの設置	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	完了	完了

※2 当社において自主的な取り組みとして実施している対策  
 ※3 追加の対応について検討中

今後も、より一層の信頼性向上のための安全対策を実施してまいります。

<参考> 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における主な自主的取り組みの対応状況

2020年3月25日現在

	対応状況	
	6号機	7号機
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタベント設備(地下式)の設置	工事中	工事中
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(2) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	完了
(4) 原子炉建屋トップベント設備の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 復水補給水系による代替使用済燃料プール注水手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
11. 水源の確保		
(2) 大湊側純水タンクの耐震強化	完了	
12. 電気供給		
(1) ガスタービン発電機(荒浜側高台)・電源車の配備	完了	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
14. 緊急時対策所		
(1) 免震重要棟の設置	完了	
(2) シビアアクシデント時の所員被ばく線量低減対策(免震重要棟内の遮へい等)	工事中	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

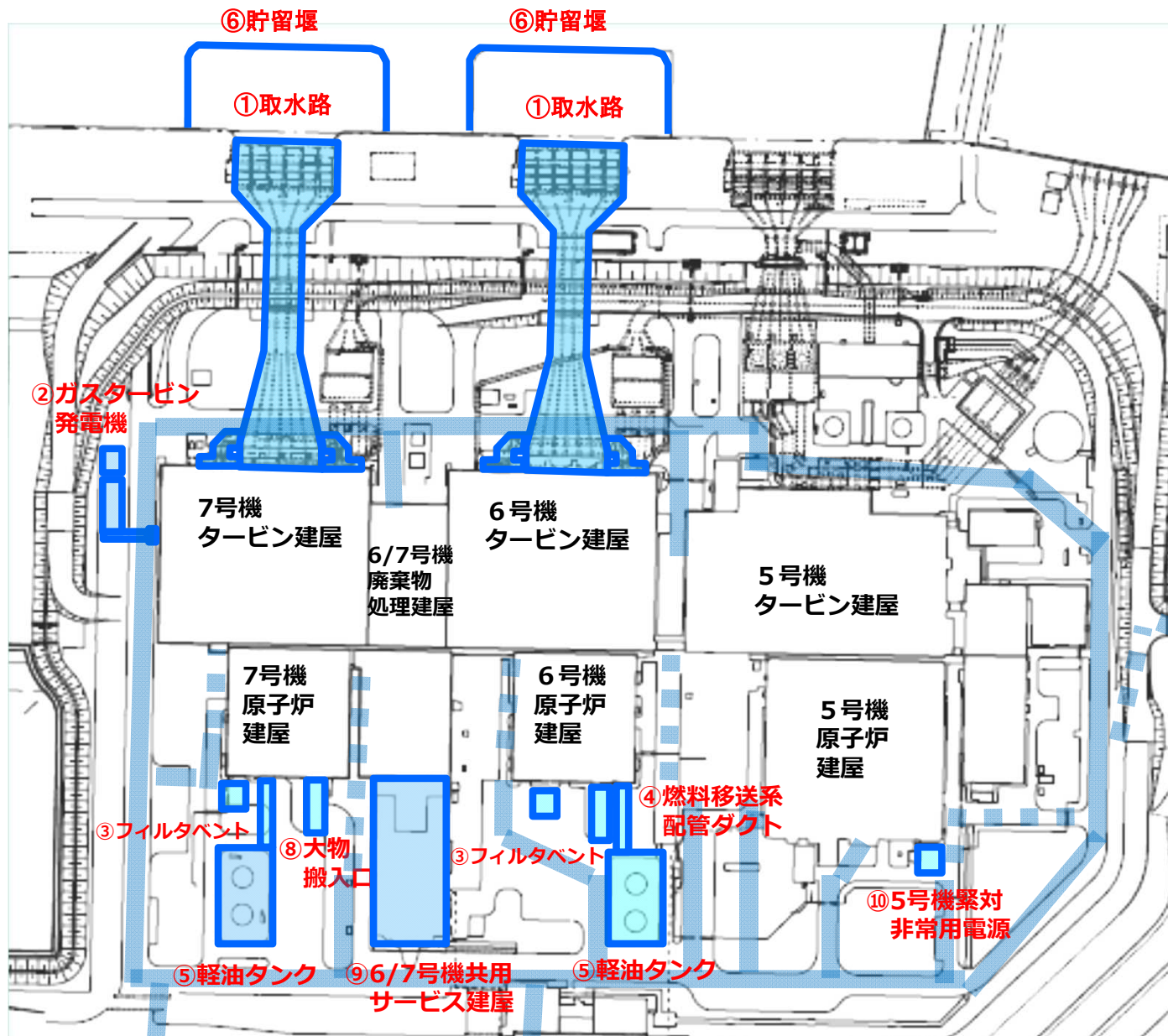
# 液状化対策の取り組み状況について

2020年3月25日現在

対象設備	6号機	7号機
①6/7号機取水路	完了	完了
②ガスタービン発電機	完了	
③6/7号機フィルタベント	詳細設計中	工事中
④6/7号機燃料移送系配管ダクト	詳細設計中	工事中
⑤6/7号機軽油タンク基礎	工事中	工事中
⑥6/7号機海水貯留堰護岸接続部	完了	完了
⑦5/6/7号機アクセス道路の補強	工事中	
⑧6/7号機大物搬入口	詳細設計中	工事中
⑨6/7号機共用サービス建屋	工事中	
⑩5号機緊急時対策所非常用電源	詳細設計中	

# 液状化対策の取り組み状況について

2020年3月25日現在



■ : ⑦アクセス道路 (車両)

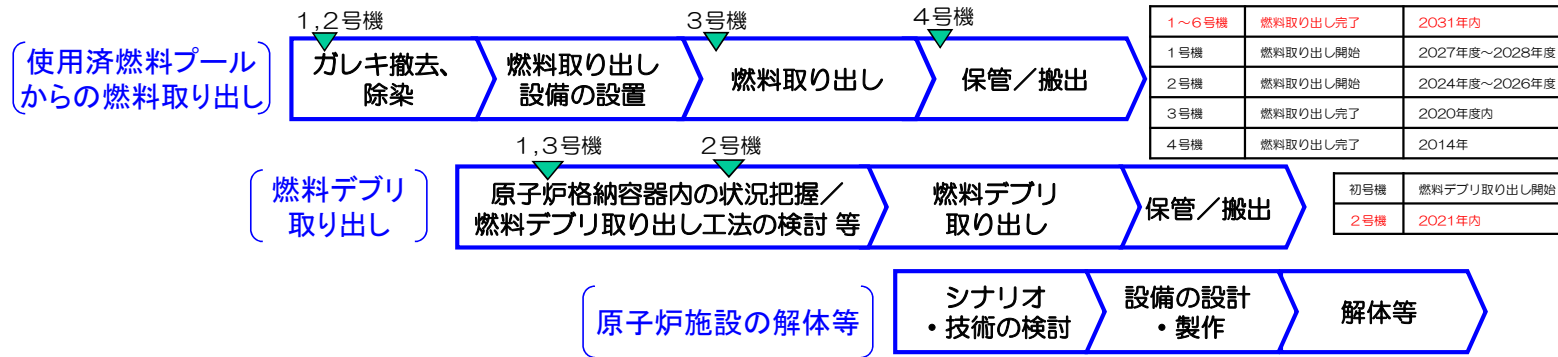
■ ■ ■ : ⑦アクセス道路 (徒歩)

アクセス道路について  
液状化工事に合わせ適宜  
実施する箇所あり

## 「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月に4号機が完了し、2019年4月15日より3号機の燃料取り出しを進めています。作業にあたっては、周辺環境のダスト濃度を監視しながら安全第一で進めます。引き続き、1、2号機の燃料取り出し、1～3号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

(注1) 事故により溶け落ちた燃料。



### 使用済燃料プールからの燃料取り出し

2019年4月15日より、3号機使用済燃料プールからの燃料取り出しを開始しました。2020年度末の燃料取り出し完了を目指しがレキ撤去作業並びに燃料取り出し作業を進めています。

燃料取り出しの状況  
(撮影日2019年4月15日)

取り出し完了燃料(体)  
**84/566**  
(2020/2/27時点)

～汚染水対策は、下記の3つの取り組みを進めています～

### (1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取り組み

#### 【3つの基本方針】

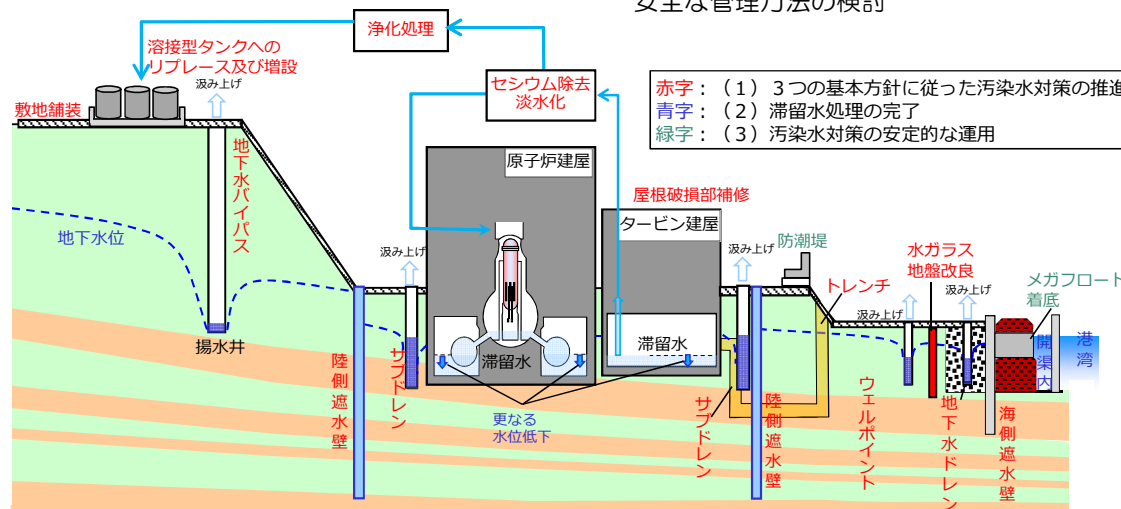
- ① 汚染源を「取り除く」
- ② 汚染源に水を「近づけない」
- ③ 汚染水を「漏らさない」

### (2) 滞留水処理の完了に向けた取り組み

- ④ 建屋滞留水の処理  
(1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く)
- ⑤ 滞留水中に含まれるα核種の濃度を低減するための除去対策
- ⑥ ゼオライト土壌に対する線量緩和対策  
安全な管理方法の検討

### (3) 汚染水対策の安定的な運用に向けた取り組み

- ⑦ 津波対策や豪雨対策など大規模災害リスクに備え、必要な対策の計画的な実施
- ⑧ 汚染水対策の効果を将来にわたって維持するための設備の定期的な点検・更新
- ⑨ 燃料デブリ取り出しが段階的に規模が拡大することを踏まえ、必要に応じ、追加的な対策の検討



#### (1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取り組み

- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水は、多核種除去設備での処理を行い、溶接型タンクで保管しています。
- 陸側遮水壁、サドレン等の重層的な汚染水対策により、建屋周辺の地下水位を低位で安定的に管理しています。また、建屋屋根の破損部の補修や構内のフェーシング等により、降雨時の汚染水発生量の増加も抑制傾向となり、汚染水発生量は、対策前の約540m<sup>3</sup>/日(2014年5月)から約170m<sup>3</sup>/日(2018年度)まで低減しています。
- 汚染水発生量の更なる低減に向けて対策を進め、2020年内には150m<sup>3</sup>/日程度に、2025年内には100m<sup>3</sup>/日以下に抑制する計画です。

#### (2) 滞留水処理の完了に向けた取り組み

- 建屋滞留水水位を計画的に低下させ、1,2号機及び3,4号機間の連通部の切り離しを達成しました。また、水位低下の進捗により確認されたα核種については、性状把握や処理方法の検討を進めています。
- 2020年内に1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋内滞留水処理を完了し、原子炉建屋については2022年度～2024年度に滞留水の量を2020年末の半分程度に低減させる計画です。
- プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の地下階に、震災直後の汚染水対策の一環として設置したゼオライト土壌について、線量低減策及び安定化に向けた検討を進めています。

#### (3) 汚染水対策の安定的な運用に向けた取り組み

- 津波対策として、建屋開口部の閉止対策や防潮堤設置、メガフロートの移動・着底等の工事を進めています。また、豪雨対策として、土壌設置による直接的な建屋への流入を抑制するとともに、排水路強化等を計画的に実施していきます。

## 取り組みの状況

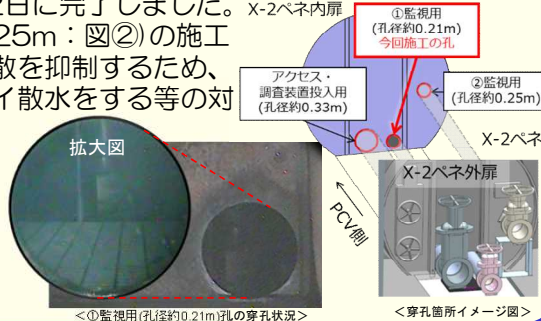
- ◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約15℃～約25℃<sup>\*1</sup>で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく<sup>\*2</sup>、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。
- ※1 号機や温度計の位置により多少異なります。
- ※2 1～4号機原子炉建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2020年1月の評価では敷地境界で年間0.00029mSv/年未満です。なお、自然放射線による被ばく線量は年間約2.1mSv/年（日本平均）です。

### 1号機アクセスルート構築作業のうち内扉3箇所中1箇所目の孔の施工が完了

1号機原子炉格納容器（以下、PCV）内部調査に向けたアクセスルート構築作業は、内扉で予定している3箇所中1箇所目の孔（孔径約0.21m：図①）の施工が2月12日に完了しました。X-2ベネ内扉

2箇所目の孔（孔径約0.25m：図②）の施工にあたっては、ダスト飛散を抑制するため、1箇所目の孔からスプレー散水をする等の対策を行います。

今後、ダスト飛散抑制対策の訓練を実施後、続く2箇所目の孔の切削作業を早ければ3月上旬頃から着手する計画です。



### 3号機燃料デブリ冷却停止試験の結果 停止中の温度変化は予測範囲内

原子炉への注水が停止した際の緊急時対応手順の適正化等を図ることを目的に、3号機で、原子炉への注水を一時的に停止する試験を実施しました。（注水停止期間：2月3日～2月5日（約48時間））

（※停止後注水量を段階的に戻す期間も含め、試験は2月17日まで実施）

原子炉への注水停止期間中の温度上昇は、原子炉圧力容器の底部で0.6℃程度、原子炉格納容器で0.7℃程度であり、概ね予測範囲内の温度変化であることを確認しました。

また、原子炉格納容器ガス管理設備のダスト濃度やその他パラメータに異常のないことを確認しました。

今後、得られた結果と予測との差異等の評価を行い、緊急時対応手順の適正化等に向けた検討を進めます。

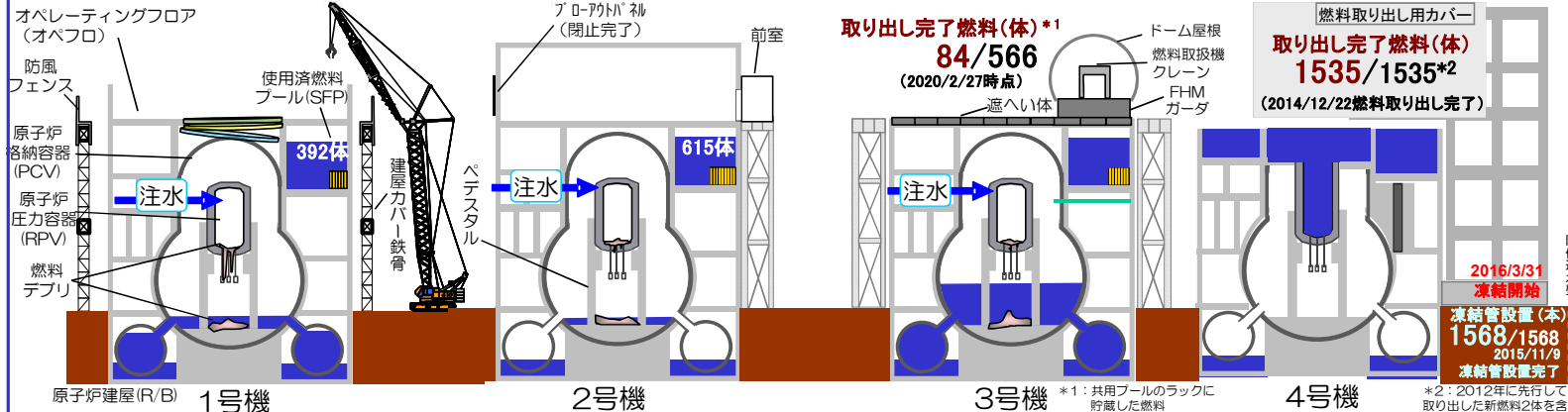
### 1～3号機窒素封入設備 信頼性向上対策の完了

1～3号機窒素封入設備の信頼性向上を目的として、装置本体の高台への移設、ディーゼル発電機の追設及び1～3号機窒素封入ラインの二重化工事が完了しました。（2019年2月～2020年1月）

今後も、窒素封入箇所の多重化等、更なる設備の信頼性向上対策に努めます。



<装置本体（高台）>



### 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会の報告書を公表

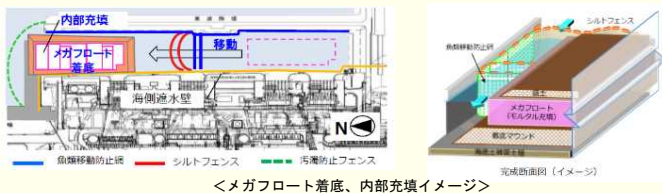
多核種除去設備等処理水の取扱いについて、技術的観点に加え、風評被害などの社会的観点も含めた総合的な検討を行ってきた「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会」の報告書を、2月10日に公表しました。

今後、政府として、本委員会の報告書も踏まえ、地元をはじめとした幅広い関係者の意見を聞きながら、処分方法のみならず、併せて講ずべき風評被害対策についても、検討していきます。

### メガフロートの着底に向けて3月より移動開始へ

メガフロートの着底に向け、2月末で船体内の水移送、内部除染が完了見込みであり、3月上旬より最終着底箇所への移動作業に着手します。

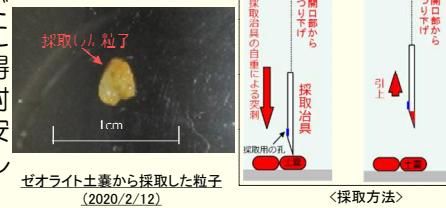
作業中は港湾内の環境モニタリングを行い、異常のないことを確認した上で、2020年度上期中の津波リスク低減完了に向け引き続き安全を最優先に作業を進めます。



### プロセス主建屋地下階のゼオライト土嚢 サンプリングを実施

プロセス主建屋地下階で確認されている高線量のゼオライト土嚢についてサンプリングを行いました。採取した粒子の粒形は数mm程度であり、表面線量は約1.3mSv/hでした。今後、採取した粒子の核種分析を行います。

また、同様に地下階で確認されている活性炭についても評価を進め、得られた知見を線量緩和対策やゼオライト土嚢の安定化対策の検討に反映していきます。

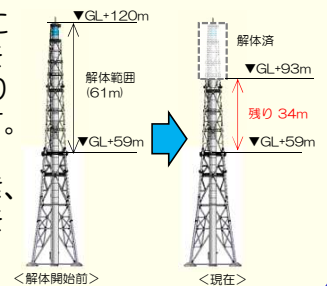


### 1/2号機排気筒11ブロック目を解体

1/2号機排気筒は、23ブロックに分けて解体する計画のうち、2月1日に11ブロック目までの解体を完了しました。

その後、2月12日にクレーンの法定点検を完了し、2月14日より作業を再開しています。

5月上旬の解体完了を目指して、引き続き、安全を最優先に作業を進めています。





# 主な取り組みの配置図

メガフロートの着底に向けて  
3月より移動開始へ

3号機燃料デブリ冷却停止試験の結果  
停止中の温度変化は予測範囲内

プロセス主建屋地下階のゼオライト土嚢サンプリングを実施

1号機アクセスルート構築作業のうち  
内扉3箇所中1箇所目の孔の施工が完了

1/2号機排気筒  
11ブロック目を解体

1～3号機窒素封入設備  
信頼性向上対策の完了

多核種除去設備等処理水の取扱い  
に関する小委員会の報告書を公表

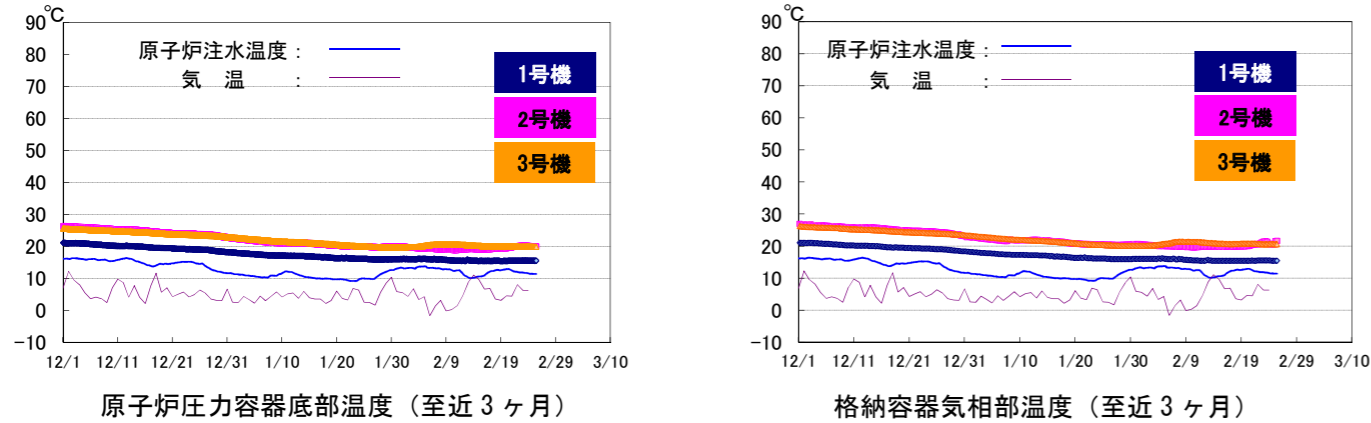
※モニタリングポスト（MP-1～MP-8）のデータ  
敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト（MP）のデータ（10分値）は $0.388\mu\text{Sv/h}$ ～ $1.273\mu\text{Sv/h}$ （2020/1/29～2020/2/25）。  
MP-2～MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10～4/18に、環境改善（森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置）の工事を実施しました。  
環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。  
MP-6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10～7/11にかけて遮へい壁を撤去しました。

提供：日本スペースイメージング（株）2018.6.14撮影  
Product(C)[2018] DigitalGlobe, Inc.

## I. 原子炉の状態の確認

### 1. 原子炉内の温度

注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約15～25度で推移。

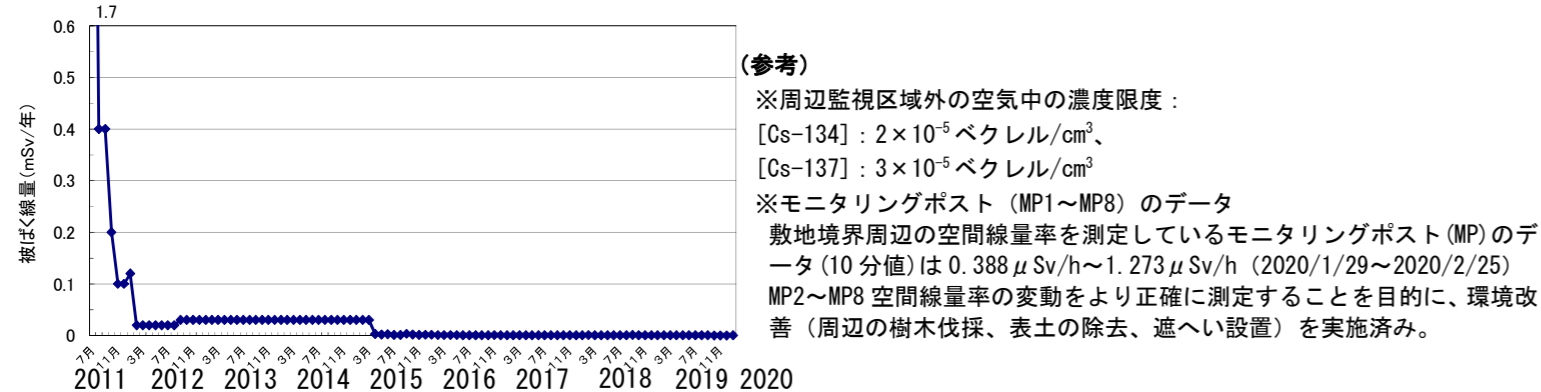


※トレンドグラフは複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示

### 2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出

2020年1月において、1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空気中放射性物質濃度は、Cs-134 約  $3.9 \times 10^{-12}$  ベクレル/cm<sup>3</sup> 及び Cs-137 約  $3.5 \times 10^{-11}$  ベクレル/cm<sup>3</sup> と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.00029mSv/年未満と評価。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質（セシウム）による敷地境界における年間被ばく線量評価



(注1) 線量評価については、施設運営計画と月例報告と異なる計算式及び係数を使用していたことから、2012年9月に評価方法の統一を図っている。4号機については、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を踏まえ、2013年11月より評価対象に追加している。2015年度より連続ダストモニタの値を考慮した評価手法に変更し、公表を翌月としている。  
(注2) 線量評価は1～4号機の放出量評価値と5,6号機の放出量評価値より算出。なお、2019年9月まで5,6号機の線量評価は運転時の想定放出量に基づく評価値としていたが、10月より5,6号機の測定実績に基づき算出する手法に見直し。

### 3. その他の指標

格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度 (Xe-135) 等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。

以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており原子炉が安定状態にあることが確認されている。

## II. 分野別の進捗状況

### 1. 汚染水対策

～汚染源を「取り除く」、汚染源に水を「近づけない」、汚染水を「漏らさない」の3つの基本方針にそって、地下水を安定的に制御するための、重層的な汚染水対策を継続実施～

#### ➤ 汚染水発生量の現状

- 日々発生する汚染水に対して、サブドレンによる汲み上げや陸側遮水壁等の対策を重層的に進め、建屋流入量を低減。
- 「近づけない」対策(地下水バイパス、サブドレン、陸側遮水壁等)を着実に実施した結果、対

策開始時の約470m<sup>3</sup>/日(2014年度平均)から約170m<sup>3</sup>/日(2018年度平均)まで低減。

- 引き続き、汚染水発生量低減に向けて、対策に取り組む。

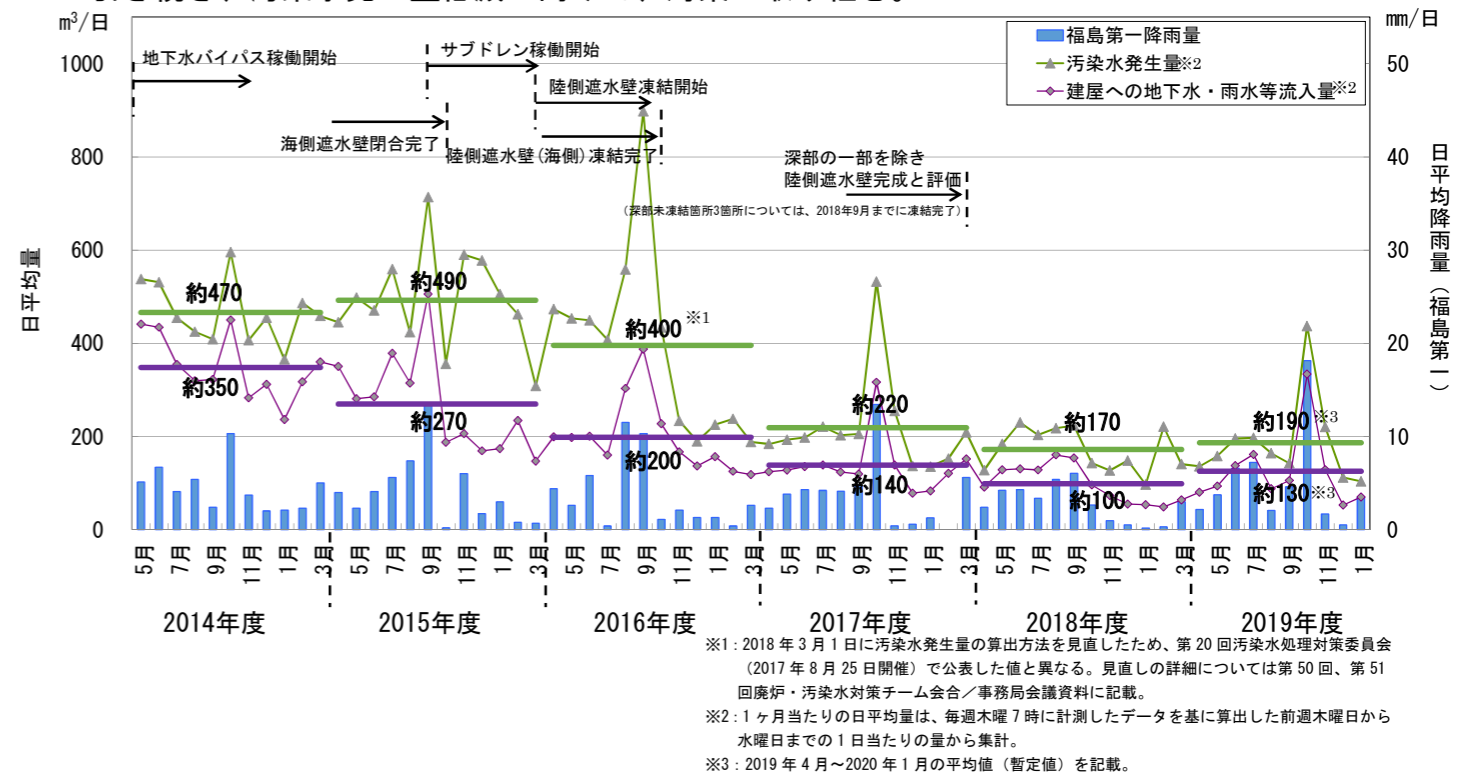


図1：汚染水発生量と建屋への地下水・雨水等の流入量の推移

#### ➤ 地下水バイパスの運用状況

- 2014年4月9日より12本ある地下水バイパス揚水井の各ポンプを順次稼働し、地下水の汲み上げを開始。2014年5月21日より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2020年2月25日までに533,018m<sup>3</sup>を排水。汲み上げた地下水は、一時貯留タンクに貯留し、水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関にて確認した上で排水。
- ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜点検・清掃を実施中。

#### ➤ サブドレン他水処理施設の運用状況

- 建屋へ流れ込む地下水の量を減らすため、建屋周辺の井戸(サブドレン)からの地下水の汲み上げを2015年9月3日より開始。汲み上げた地下水は専用の設備により浄化し、2015年9月14日より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2020年2月25日までに856,354m<sup>3</sup>を排水。浄化した地下水は水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関にて確認した上で排水。
- 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから2015年11月5日より汲み上げを開始。2020年2月25日までに約229,276m<sup>3</sup>を汲み上げ。地下水ドレンからタービン建屋へ約10m<sup>3</sup>/日未満移送(2020年1月23日～2月19日の平均)。
- 重層的な汚染水対策の一つとして、降雨の土壌浸透を抑える敷地舗装(作業環境改善と雨水浸透防止を目的としたフェーシング:2020年1月末時点で計画エリア(敷地内145万m<sup>2</sup>)の約94%完了)等と併せてサブドレン処理システムを強化するための設備の設置を行っており、2018年4月より供用を開始。これにより、処理能力を900m<sup>3</sup>/日から1500m<sup>3</sup>/日に増加させ信頼性を向上。更にピーク時には運用効率化により1週間弱は最大2000m<sup>3</sup>/日の処理が可能。
- サブドレンの安定した汲み上げ量確保を目的とし、サブドレンピットの増強・復旧工事を実施中。増強ピットは工事完了したものから運用開始(運用開始数:増強ピット12/14)。復旧ピットは予定していた3基の工事が完了し、2018年12月26日より運用開始(運用開始数:復旧ピット3/3)。また、さらに追加で1ピット復旧する工事を2019年11月より開始(No.49ピット)。
- サブドレン移送配管清掃時の汲み上げ停止の解消を目的とし、移送配管を二重化するため、配管・付帯設備の設置を完了。

- サブドレン稼働によりサブドレン水位が T.P. 3.0m を下回ると、建屋への流入量も 150m<sup>3</sup>/日を下回るようになってきているが、降雨による流入量の増加も認められる。

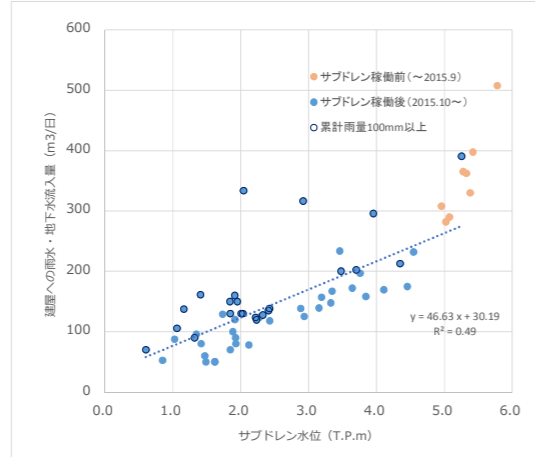


図2：建屋への地下水・雨水等流入量と1～4号機サブドレン水位の相関

### 陸側遮水壁の造成状況と建屋周辺地下水位の状況

- 陸側遮水壁は、凍土の成長を制御する維持管理運転を、2017年5月より、北側と南側で実施中。また、凍土が十分に造成されたことから、東側についても2017年11月に維持管理運転を開始。2018年3月に維持管理運転範囲を拡大。
- 2018年3月、陸側遮水壁はほぼ全ての範囲で地中温度が0℃を下回ると共に、山側では4～5mの内外水位差が形成され、深部の一部を除き造成が完成。2018年3月7日に開催された第21回汚染水処理対策委員会にて、サブドレン等の機能と併せ、地下水を安定的に制御し、建屋に地下水を近づけない水位管理システムが構築され、汚染水の発生を大幅に抑制することが可能となったとの評価が得られた。
- 深部の未凍結箇所については補助工法を行い、2018年9月までに0℃以下となったことを確認。また、2019年2月より全区間で維持管理運転を開始。
- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は、年々低下傾向にあり、山側では平均的に5～6mの内外水位差が形成。また、護岸エリア水位も地表面(T.P. 2.5m)に対して低位(T.P. 1.6～1.7m)で安定している状況。

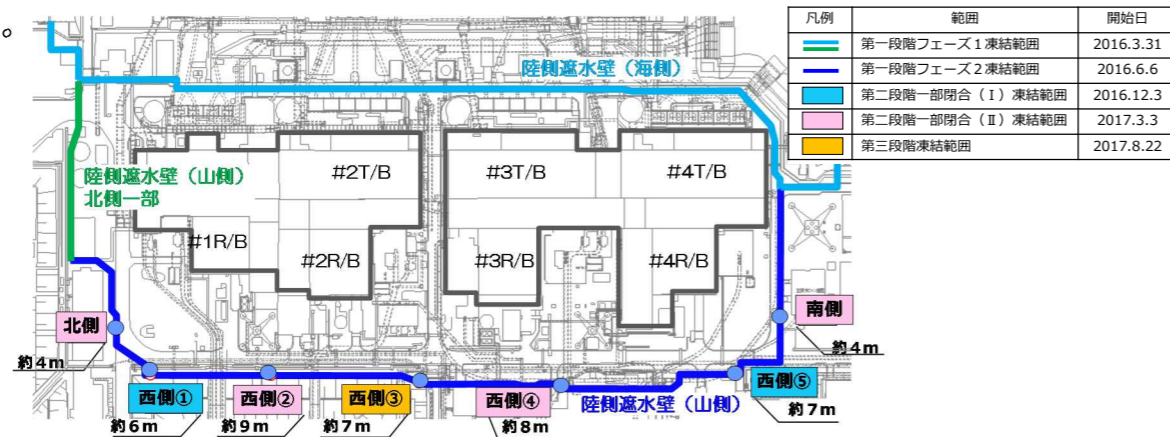


図3：陸側遮水壁(山側)の閉合箇所

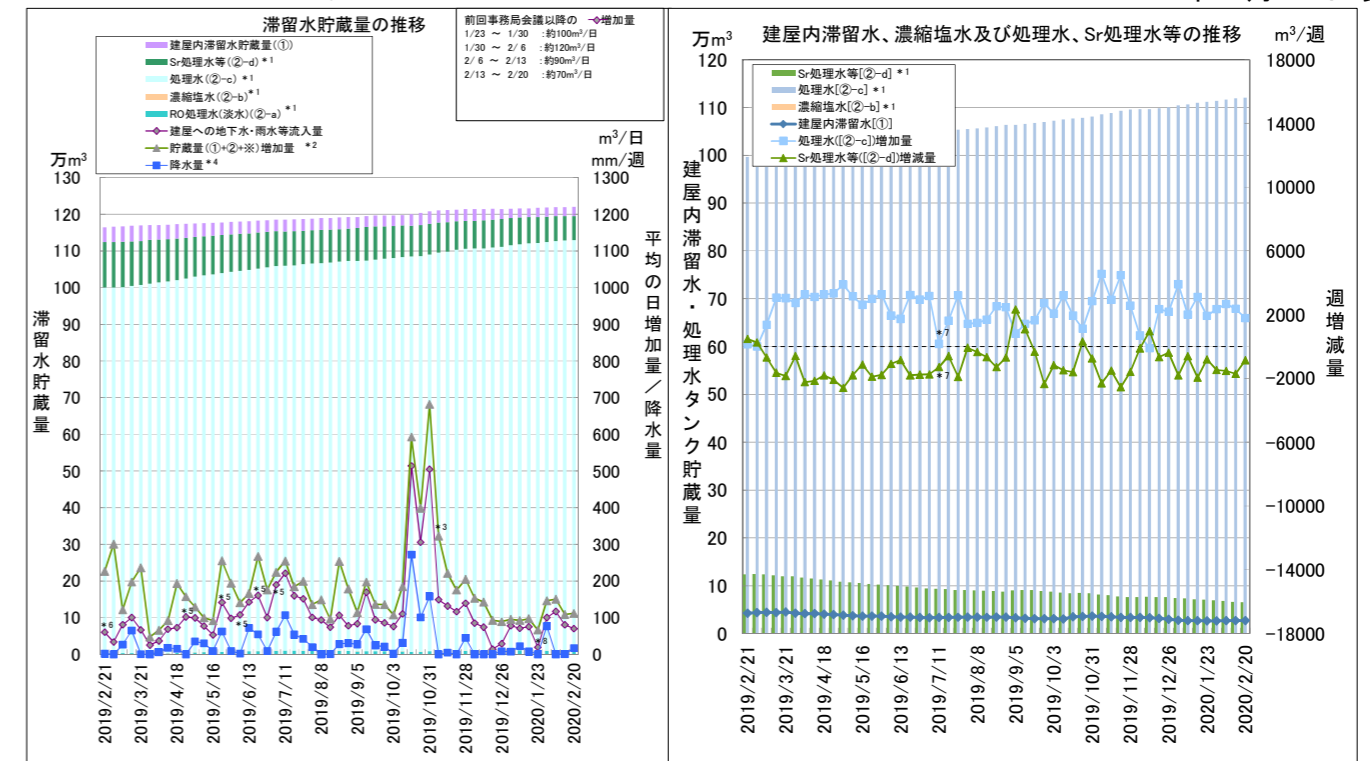
### 多核種除去設備の運用状況

- 多核種除去設備(既設・高性能)は放射性物質を含む水を用いたホット試験を実施中(既設A系：2013年3月30日～、既設B系：2013年6月13日～、既設C系：2013年9月27日～、高性能：2014年10月18日～)。多核種除去設備(増設)は2017年10月16日より本格運転開始。
- これまでに既設多核種除去設備で約427,000m<sup>3</sup>、増設多核種除去設備で約625,000m<sup>3</sup>、高性能多核種除去設備で約103,000m<sup>3</sup>を処理(2020年2月20日時点、放射性物質濃度が高い既設B系出口水が貯蔵されたJ1(D)タンク貯蔵分約9,500m<sup>3</sup>を含む)。
- ストロンチウム処理水のリスクを低減するため、多核種除去設備(既設・増設・高性能)にて処理を実施中(既設：2015年12月4日～、増設：2015年5月27日～、高性能：2015年4月15

日～)。これまでに約680,000m<sup>3</sup>を処理(2020年2月20日時点)。

### タンク内にある汚染水のリスク低減に向けて

- セシウム吸着装置(KURION)でのストロンチウム除去(2015年1月6日～)、第二セシウム吸着装置(SARRY)でのストロンチウム除去(2014年12月26日～)を実施中。第三セシウム吸着装置(SARRY II)でのストロンチウム除去(2019年7月12日～)を実施中。2020年2月20日時点で約570,000m<sup>3</sup>を処理。
- タンクエリアにおける対策
  - 汚染水タンクエリアに降雨し堰内に溜まった雨水のうち、排水基準を満たさない雨水について、2014年5月21日より雨水処理装置を用い放射性物質を除去し敷地内に散水(2020年2月24日時点で累計150,087m<sup>3</sup>)。2020年2月20日現在



- \*1: 水位計0%以上の水量
- \*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)  
[(建屋への地下水・雨水等流入量) + (その他移送量) + (ALPS薬液注入量)]
- \*3: 廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。  
(移送量の主な内訳は①地下水ドレンRO濃縮水をタービン建屋へ移送：約80m<sup>3</sup>/日、②ウェル・地下水ドレンからの移送：約50m<sup>3</sup>/日、③5/6号SPTからプロセス主建屋へ移送：20m<sup>3</sup>/日、他)
- \*4: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
- \*5: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に増加したものと推定。(2019/4/22, 2019/5/16, 2019/5/30, 2019/6/13, 2019/6/27)
- \*6: 建屋水位計の取替えを実施。(2019/2/7～2019/3/7)
- \*7: タンクエリア毎に、タンク水量・容量の算出方法が異なっていたため、全エリアのタンク水量・容量算出方法を統一。統一に伴い、計算上、処理水増加量及びSr処理水等増減量が変動しているが、実際の処理量は、処理水：約2200m<sup>3</sup>/週、Sr処理水等：約1100m<sup>3</sup>/週。(2019/7/11)
- \*8: 2019/1/16～23集計分より4号機R/B水位低下に伴いR/B滞留水へ流出するS/C内系統水量について、廃炉作業に伴い発生する移送量に加え、建屋への地下水・雨水等流入量へ反映

図4：滞留水の貯蔵状況

### メガフロートの津波等リスク低減対策工事の進捗状況について

- メガフロートの着底に向け、2020年2月末で船体内の水移送、内部除染が完了見込みであり、3月上旬より最終着底箇所への移動作業に着手予定。
- 作業中は港湾内の環境モニタリングを行い、異常のないことを確認した上で、2020年度上期中の津波リスク低減完了に向け引き続き安全を最優先に作業を進める。

### 建屋滞留水処理の進捗状況

- プロセス主建屋地下階で確認されている高線量のゼオライト土嚢についてサンプリングを実施。採取した粒子の粒形は数mm程度であり、表面線量は約1.3mSv/h。今後、採取した粒子の核種分析を行う。
- 同様に地下階で確認されている活性炭についても評価を進め、得られた知見を線量緩和対策やゼオライト土嚢の安定化対策の検討に反映していく。

### ➤ 5/6号機サブドレン設備の復旧について

- 5/6号機建屋への地下水流入量を抑制するため、震災以降、稼働を停止している5/6号機サブドレン設備を復旧する計画。なお、汲み上げたサブドレン水は、1~4号機サブドレン浄化設備へ移送し、浄化処理を行う。
- 設備の復旧に向け、精査・検討を進めた結果、現地工事をフェーズ1（一時中継タンクから1~4号機サブドレン集水タンクへ直接移送）とフェーズ2（二次中継タンクを設置して運用）に分け、2021年度にフェーズ1での運用開始を目指す。

### ➤ 1/2号機排気筒サンピット水位低下対策の状況について

- 2019年11月26日、1/2号機排気筒ドレンサンピットの水位のトレンドデータを確認したところ、移送ポンプが起動しないにもかかわらず、ピット内水位が低下する事象を確認。
- ピットからの流出可能性を踏まえた影響緩和対策として、移送ポンプ吸込み下限値の設定見直しを実施。さらに、吸込み下限値が低くなるよう、2020年2月14日、吸込み管の交換を完了。
- ピットへの雨水流入防止対策として、今後、排気筒解体作業を進め、排気筒の上部への蓋設置を検討するとともに、並行して、ピットを使用しない抜本的な対策を検討していく。

## 2. 使用済燃料プールからの燃料取り出し

～耐震・安全性に万全を期しながらプール燃料取り出しに向けた作業を着実に推進。4号機プール燃料取り出しは2013年11月18日に開始、2014年12月22日に完了～

### ➤ 1号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 2018年1月22日より、使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けて、オペフロ北側のガレキ撤去を開始。撤去したガレキは、その線量に応じて固体廃棄物貯蔵庫等の保管エリアに保管。
- 2018年9月19日より、使用済燃料プール保護等の準備作業を行うアクセスルートを確認するため、一部のXブレース（西面1箇所、南面1箇所、東面2箇所の計4箇所）撤去作業を開始、12月20日に計画していた4箇所の撤去が完了。
- 2019年3月18日より、ペンチ及び吸引装置を用いて使用済燃料プール周辺東側の小ガレキ撤去作業を開始。また、7月9日より、使用済燃料プール周辺南側の小ガレキ撤去を開始。
- 事故時の水素爆発の影響により正規の位置からズレが生じたと考えられるウェルプラグについて、2019年7月17日～8月26日にカメラ撮影、空間線量率測定、3D計測などを実施。
- 2019年9月27日、使用済燃料プールの養生のための干渉物調査を実施し、養生設置の計画に支障となる干渉物がないことを確認。燃料ラック上に3号機で確認されたコンクリートブロックの様な重量物がないこと、パネル状や棒状のガレキが燃料ラック上に点在している事を確認。
- ガレキ撤去後にカバーを設置する工法と、ガレキ撤去より先に原子炉建屋を覆う大型カバーを設置しカバー内でガレキ撤去を行う工法の2案について検討を進めてきたが、より安全・安心に作業を進める観点から『大型カバーを先行設置しカバー内でガレキ撤去を行う工法』を選択。

### ➤ 2号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 2018年11月6日、原子炉建屋上部解体等の作業計画立案に向けた調査に先立ち、オペフロ内残置物移動・片付け（1回目）を完了。
- 2019年2月1日、オペフロ内の床・壁・天井の線量測定、汚染状況などを確認するための調査を完了。調査結果の解析により、オペフロ全域の『汚染密度分布』を得ることができたため、オペフロ内の空間線量率評価が可能。今後、遮へい設計や放射性物質の飛散対策等を検討。
- 2019年4月8日より、燃料取扱設備設置等に支障となる資機材等の残置物移動・片付け作業（2回目）を開始。2回目では主に小物残置物の片付け、コンテナ詰めを実施するとともに、ダスト飛散抑制のための床面清掃を実施し、8月21日に完了。
- 2019年9月10日より、燃料取扱設備設置等に支障となる資機材等の残置物移動・片付け作業（3回目）を開始。主に大物残置物の片付け、コンテナ詰めを実施。
- 2020年3月から作業習熟訓練を行い、5月よりこれまでに残置物を格納したコンテナを固体廃棄物貯蔵庫へ搬出する予定。

- 燃料取り出しの工法については、2018年11月～2019年2月に実施したオペフロ内調査の結果を踏まえ、ダスト管理や作業被ばくの低減などの観点から、建屋南側に小規模開口を設置しアクセスする工法を選択（従来は建屋上部を全面解体する工法）。

### ➤ 3号機燃料取り出しに向けた主要工程

- 2019年4月15日より、使用済燃料プールに保管している使用済燃料514体、新燃料52体（計566体）の取り出し作業を開始。その後、7体の新燃料を輸送容器へ装填、4月23日に、共用プール建屋へ輸送し、4月25日に輸送容器1回目の燃料取り出し作業が完了。
- 2019年7月4日より、燃料取り出し作業を再開。7月21日時点で全燃料566体のうち28体の燃料取り出しを完了。
- 2019年7月24日より開始した燃料取扱設備の定期点検を2019年9月2日に完了したが、その後の燃料取り出しの再開に向けた設備の調整作業において、テンシルトラス及びマストの旋回不良を確認。この対応として、部品の交換・動作確認を行い、問題無いことを確認。
- 模擬燃料を用いた動作確認中に、2019年12月14日に輸送容器内の収納缶と模擬燃料の干渉を確認。調査の結果、マストが若干偏る傾向を確認したが、手順の見直し等にて対応。
- 2019年12月23日より燃料取り出し作業を再開。再開後は計画通り作業を進めている。
- 2020年2月14日、全ての燃料ハンドルの確認が完了（ハンドル変形を確認した燃料は計14体）。

### ➤ 1/2号機排気筒解体作業の進捗

- 1/2号機排気筒は23ブロックに分けて解体する計画のうち、2020年2月1日に11ブロック目までの解体を完了。
- その後、2020年2月12日にクレーンの法定点検を完了し、2月14日より作業を再開。
- 2020年5月上旬の解体完了を目指して、引き続き、安全を最優先に作業を進めている。

## 3. 燃料デブリ取り出し

### ➤ 1号機原子炉格納容器内部調査にかかるアクセスルート構築作業

- 1号機原子炉格納容器内部調査に向けたアクセスルート構築作業は、内扉で予定している3箇所中1箇所目の孔（孔径約0.21m）の施工が2020年2月12日に完了。
- 2箇所目の孔（孔径約0.25m）の施工にあたっては、ダスト飛散を抑制するため、1箇所目の孔からスプレイ散水をする等の対策を行う。
- 今後、ダスト飛散抑制対策の訓練を実施後、続く2箇所目の孔の切削作業を早ければ3月上旬頃から着手する計画。

## 4. 固体廃棄物の保管管理、処理・処分、原子炉施設の廃止措置に向けた計画

～廃棄物発生量低減・保管適正化の推進、適切かつ安全な保管と処理・処分に向けた研究開発～

### ➤ ガレキ・伐採木の管理状況

- 2020年1月末時点でのコンクリート、金属ガレキの保管総量は約286,700m<sup>3</sup>（12月末との比較：+2,600m<sup>3</sup>）（エリア占有率：70%）。伐採木の保管総量は約134,200m<sup>3</sup>（12月末との比較：+100m<sup>3</sup>）（エリア占有率：76%）。保護衣の保管総量は約47,200m<sup>3</sup>（12月末との比較：-900m<sup>3</sup>）（エリア占有率：69%）。ガレキの増減は、主にタンク関連工事及び1~4号機建屋周辺ガレキ撤去関連工事による増加。使用済保護衣の増減は、焼却運転による減少。

### ➤ 水処理二次廃棄物の管理状況

- 2020年2月6日時点での廃スラッジの保管状況は597m<sup>3</sup>（占有率：85%）。濃縮廃液の保管状況は9,322m<sup>3</sup>（占有率：91%）。使用済ベッセル・多核種除去設備の保管容器（HIC）等の保管総量は4,648体（占有率：73%）。

## 5. 原子炉の冷却

～注水冷却を継続することにより低温での安定状態を維持するとともに状態監視を補完する取組を継続～

### ➤ 3号機燃料デブリ冷却停止試験の結果（速報）

- 原子炉への注水が停止した際の緊急時対応手順の適正化等を図ることを目的に、3号機で原子炉への注水を一時的に停止する試験を実施。注水停止期間は2020年2月3日～2月5日（約48時間、停止後注水量を段階的に戻す期間も含め、試験は2月17日まで実施）。
- 原子炉への注水停止期間中の温度上昇は、原子炉圧力容器の底部で0.6℃程度、原子炉格納容器で0.7℃程度であり、概ね予測範囲内の温度変化であることを確認。また、原子炉格納容器ガス管理設備のダスト濃度やその他パラメータに異常のないことを確認。
- 今後、得られた結果と予測との差異等の評価を行い、緊急時対応手順の適正化等に向けた検討を進める。

### ➤ 1～3号機窒素封入設備他取替工事について

- 1～3号機窒素封入設備の信頼性向上を目的として、装置本体の高台への移設、ディーゼル発電機の追設及び1～3号機窒素封入ラインの二重化工事が完了。（2019年2月～2020年1月）
- 今後も、窒素封入箇所の多重化等、更なる設備の信頼性向上対策に努める。

### ➤ 2号復水貯蔵タンクインサービスに向けた原子炉注水系の切替について

- 原子炉注水系の水源多重化を目的とした2号機復水貯蔵タンク（以下、CST）のインサービスに向けて、2020年3月より1～3号機CST炉注水系を2号機CST循環運転に切り替え、運転状態の確認を実施する予定。
- その間、1～3号機の原子炉注水はCST炉注水系から高台炉注水系に切り替えて注水を継続。なお、高台炉注水系にて1～3号機原子炉注水量を増加（通常3.0m<sup>3</sup>/hから4.5m<sup>3</sup>/h）した場合でも滞留水の処理に与える影響はなし。

## 6. 放射線量低減・汚染拡大防止

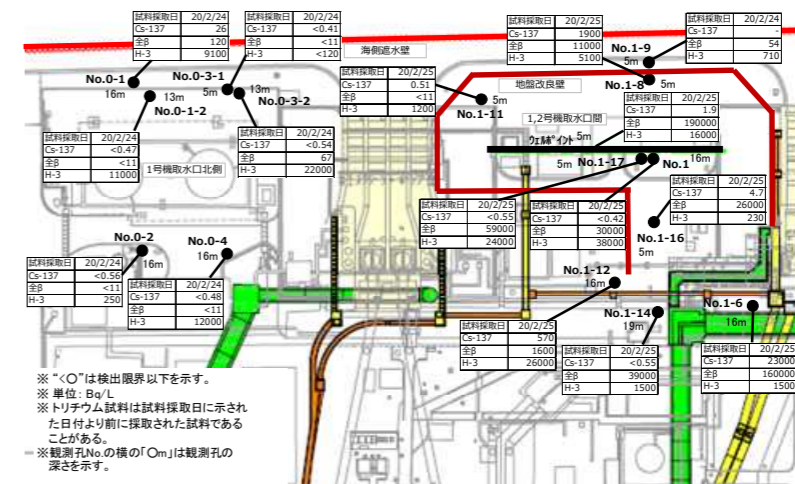
～敷地外への放射線影響を可能な限り低くするため、敷地境界における実効線量低減や港湾内の水の浄化～

### ➤ 1～4号機タービン建屋東側における地下水・海水の状況

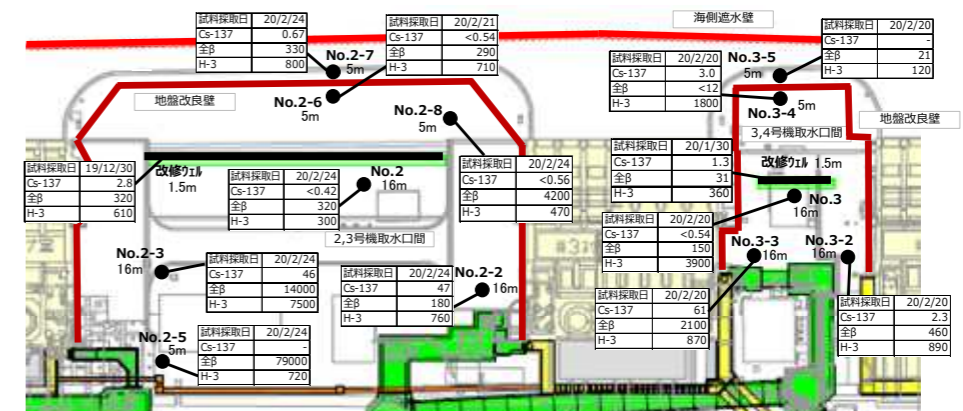
- No. 1-9で全β濃度は2019年4月より20Bq/l程度から上昇低下を繰り返し、現在50Bq/l程度。
- No. 1-12で全β濃度は2019年12月より500Bq/l程度から上昇し、現在1,600Bq/l程度。2013年8月15日より地下水汲み上げを継続（1、2号機取水口間ウェルポイント：2013年8月15日～2015年10月13日、10月24日～、改修ウェル：2015年10月14日～23日）。
- No. 2-3でH-3濃度は2019年8月より6,000Bq/l程度から低下傾向にあったが上昇し、現在7,500Bq/l程度。全β濃度は2019年8月より14,000Bq/l程度から5,000Bq/l程度まで低下後上昇し、現在14,000Bq/l程度。
- No. 2-5でH-3濃度は2019年6月より2,300Bq/l程度から120Bq/l未満まで低下後上昇低下を繰り返し、現在700Bq/l程度。全β濃度は2019年9月より65,000Bq/l程度から500Bq/l程度まで低下後上昇し、現在79,000Bq/l程度。
- No. 2-6で全β濃度は2019年5月より100Bq/l程度から上昇し、現在290Bq/l程度。（2013年12月18日より地下水汲み上げを継続（2、3号機取水口間ウェルポイント：2013年12月18日～2015年10月13日、改修ウェル：2015年10月14日～））。
- 排水路の放射性物質濃度は、降雨時に濃度が上昇する傾向にあるが、全体的に横ばい傾向。
- 1～4号機取水路開渠内エリアの海水放射性物質濃度は告示濃度未満で推移しており、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度が上昇。海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度が低下。メガフロート関連工事によりシルトフェンスを開渠中央へ移設した2019年3月20日以降、Cs-137濃度について、南側遮水壁前が高め、東波除堤北側が低めで推移。
- 港湾内エリアの海水放射性物質濃度は告示濃度未満で推移しており、降雨時にCs-137濃度、Sr-

90濃度が上昇するが1～4号機取水路開渠内エリアより低いレベル。海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度が低下。

- 港湾外エリアの海水放射性物質濃度は、海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、Cs-137濃度、Sr-90濃度が低下し、低い濃度で推移。



<1号機取水口北側、1、2号機取水口間>



<2、3号機取水口間、3、4号機取水口間>

図5: タービン建屋東側の地下水濃度

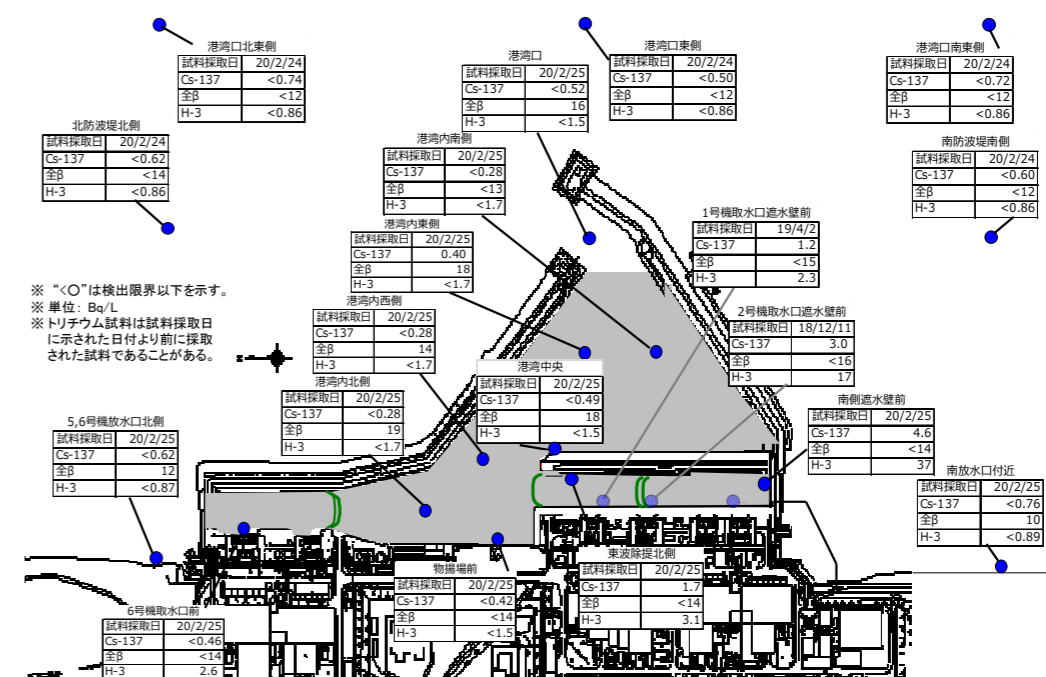


図6: 港湾周辺の海水濃度

## 7. 必要作業員数の見通し、労働環境、労働条件の改善に向けた取組

～作業員の被ばく線量管理を確実に実施しながら長期に亘って要員を確保。また、現場のニーズを把握しながら継続的に作業環境や労働条件を改善～

### ➤ 要員管理

- 1ヶ月間のうち1日でも従事者登録されている人数（協力企業作業員及び東電社員）は、2019年10月～2019年12月の1ヶ月あたりの平均が約9,100人。実際に業務に従事した人数は1ヶ月あたりの平均で約6,800人であり、ある程度余裕のある範囲で従事登録者が確保されている。
- 2020年3月の作業に想定される人数（協力企業作業員及び東電社員）は、平日1日当たり4,300人程度と想定され、現時点で要員の不足が生じていないことを主要元請企業に確認。なお、2017年度以降の各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）は約3,400～5,600人規模で推移（図7参照）。
- 福島県内、県外の作業者は横ばい。2020年1月時点における地元雇用率（協力企業作業員及び東電社員）も横ばいで約60%。
- 2016年度の月平均線量は約0.39mSv、2017年度の月平均線量は約0.36mSv、2018年度の月平均線量は約0.32mSvである。（参考：年間被ばく線量目安20mSv/年≒1.7mSv/月）
- 大半の作業員の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状況である。

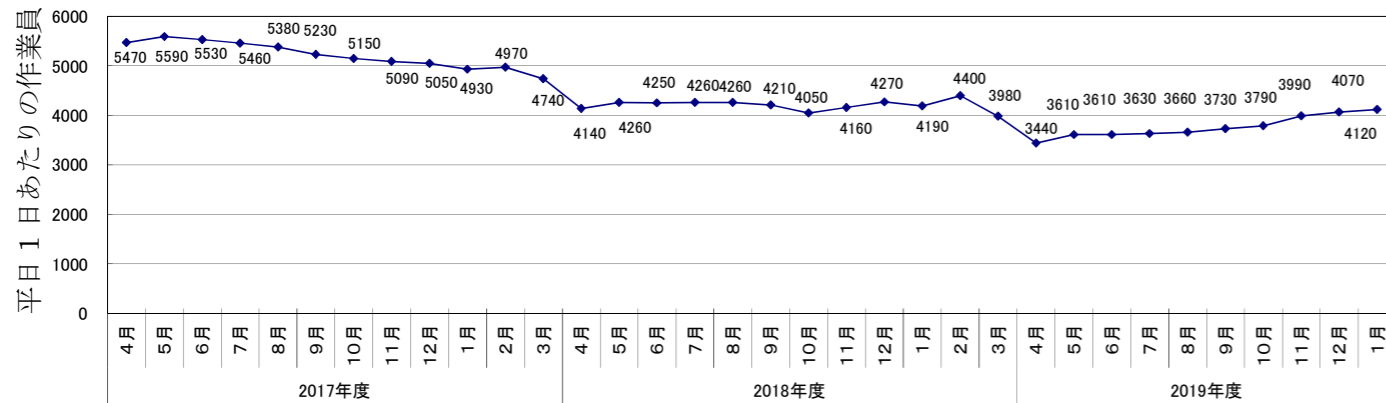


図7：2017年度以降各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

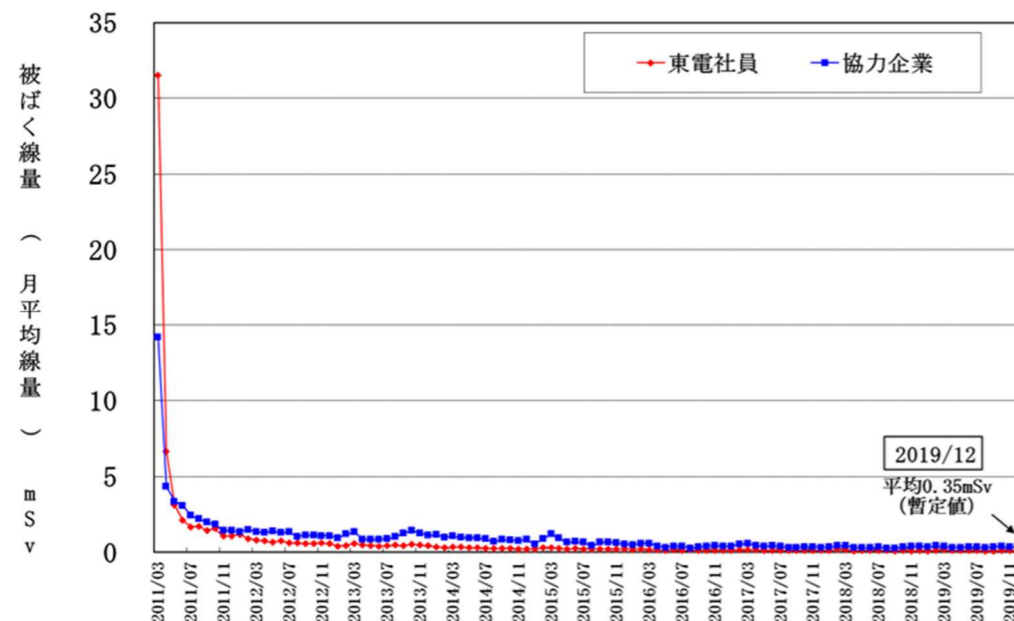


図8：作業員の月別個人被ばく線量の推移（月平均線量）（2011/3以降の月別被ばく線量）

### ➤ インフルエンザ・ノロウイルス感染予防・拡大防止対策

- 11月よりインフルエンザ・ノロウイルス対策を実施。対策の一環として、協力企業作業員の方を対象に福島第一（2019年11月13日～12月13日）及び近隣医療機関（2019年12月2日～2020年1月30日）にて、インフルエンザ予防接種を無料（東京電力HDが費用負担）で実施。2020年1月30日までに合計6,107人が接種を受けた。その他、日々の感染予防・拡大防止策（検温・健康チェック、感染状況の把握）、感染疑い者発生後の対応（速やかな退所と入構管理、職場でのマスク着用徹底等）等、周知徹底し、対策を進めている。

### ➤ インフルエンザ・ノロウイルスの発生状況

- 2020年第8週（2020/2/17～2/23）までのインフルエンザ感染者167人、ノロウイルス感染者10人。なお、昨シーズン同時期の累計は、インフルエンザ感染者270人、ノロウイルス感染者12人。

### ➤ 新型コロナウイルス感染症予防対策

- 「新型コロナウイルス感染症」予防対策として、手洗い、消毒、咳エチケットなどの周知と合わせて、新型コロナウイルス感染症例の紹介や感染疑い者が発生した場合の連絡先などについても元請企業各社へ周知をしている。

## 8. その他

### ➤ 福島第一原子力発電における顔面汚染に係る今後の対応について

- 2020年2月6日、2号機原子炉建屋大物搬入口の2階の片付け作業を行っていた作業員の身体汚染が発生。
- 2020年2月18日、プロセス主建屋3階において、PE管の耐放射線試験として、地下滞留水中のPE管試験片の引き上げ、取り出し及び再投入作業を実施していた作業員の身体汚染が発生。
- 上記2件に係る今後の対応として、Rゾーンから退域する際の全面マスクの拭き取りや、汚染測定強化を行うとともに、放射線防護装備の着脱方法の明確化や放射線防護に関する全体的な教育を実施していく。

### ➤ 2020年度廃炉研究開発計画について

- 2019年度の研究開発プロジェクトの進捗等を踏まえ、来年度に実施する研究開発プロジェクトの計画について取りまとめを実施。

### ➤ 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会の報告書を公表

- 多核種除去設備等処理水の取扱いについて、技術的観点に加え、風評被害などの社会的観点も含めた総合的な検討を行ってきた「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会」の報告書を、2020年2月10日に公表。
- 今後、政府として、本委員会の報告書も踏まえ、地元をはじめとした幅広い関係者の意見を聞きながら、処分方法のみならず、併せて講ずるべき風評被害対策についても、検討していく。